

令和5年度 未来をつくろう市民と市長の地域懇談会 報告書



開催日	会場	参加者数	ページ
10/10 (火)	文化会館	20	2~8
10/16 (月)	ふれあいセンター	26	9~16
10/18 (水)	西地区コミュニティセンター	25	17~26
10/20 (金)	南コミュニティセンター	18	27~34
10/27 (金)	山部福祉センター	27	35~44
10/30 (月)	麓郷集落センター	32	45~52
11/8 (水)	布部会館	8	53~57
11/9 (木)	鳥沼会館	14	58~65
11/14 (火)	東山支所	25	66~74
アンケート集計結果			75

日時 10月10日(火) 18:30~20:00
場所 文化会館(複合庁舎1階会議室ABC)
参加者 20人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

令和5年度の地域懇談会ということで、今日が第1回目となります。朝晩がめっきり寒くなっていく中、ご参加をいただきありがとうございます。

旭岳が白くなってきて冬の訪れを感じるころですが、今年の夏の30度を超える暑さは何だったのかなと思うところです。聞くところによると30度を超える日は40日ぐらいあったということで、今まで30度を超えると異常気象だと片付けていましたが、これだけの日数があると対処をしていかなければいけないと思います。色々な課題を投げかけていただいた夏だったと思います。

そのような中で一番大きかったのは、子どもたちの教育環境です。暑さ中の温度管理するために学校で色々工夫をしていただいたが、工夫だけでは追いつかないところもあったのかと思います。冷風扇ということで、冷風を校内に流す器材を導入しましたが、これだけで済むのかということをごの後にに向けて検討していかなければいけません。

また、その他にも不安になったこととして、人が少ないということで介護施設が閉所したことがありました。施設が判断することではありますが、原因は人が足りないということなので、人を確保していく手だてを行政は取っていかなければいけません。民間の事業所、医療、介護、教育の方々にもご参加いただいた1回目の話し合いを行い、人が足りないことについて意見交換をしました。また、同時に役所内でも雇用をどうやって確保していくのかの課題と対応について検討を行いました。1回目の意見交換と行政側の企画をしている部分と付け合わせを行い、来年度の予算に対応できる形で進めていきたいと考えています。

人が足りないというのはどこも同じです。保育現場でも保育士が足りない、農業では海外の方を入れて人を確保している、観光でいえば飲食、ホテルでは人がいなくて思うように100%稼働できていないという状況です。これを解消していくことが地域の経済にもつながると思っていますし、まちの活性化もここから始まると思っています。

行政としては、シティプロモーションということでまちの魅力を磨き上げる、あるいは掘り起こすということを情報発信していくことで、住んでいてよかった、富良野に行ってみたいと思っただけのようにまちづくりを進めていきたいと思えます。

今日は未来をつくろうということですので、皆様から想いやアイデアをお聞かせいただけたらありがたいなと思います。

先ほども懇談会のテーマとしてあげさせていただいている「ゼロカーボンの取り組み」「AI オンデマンド交通」をまちの魅力に繋げていく取り組みです。ゼロカーボンの取り組みの第1弾として太陽光の普及に向けて補助金を拡充しましたが、市民の皆様にご協力をいただいて初めて脱炭素、脱炭素に掲げる目標に近づけるかと思っています。内容についてはなかなか、理解しにくいところ、取り組みづらいところあるかと思いますが、ぜひ特段のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

まちづくりの中で1番に掲げているのは「健幸」です。市民の皆様の健幸が益々増進されることと、短い時間ですが、意義ある懇談会にさせていただければと思います。本日はよろしくお願ひします。

出席者紹介

- ・ 稲葉副市長
- ・ 近内教育長
- ・ 関澤総務部長
- ・ 西野 SC 戦略室長
- ・ 山下市民生活部長
- ・ 柿本保健福祉部長
- ・ 川上経済部長
- ・ 北川建設水道部長
- ・ 佐藤教育部長
- ・ 小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行～稲葉副市長～

ゼロカーボンの取り組み

～石出環境課主幹 資料について説明～

市民

富良野に住んで4年目ですが、住みやすくこのまちに住めてよかったと思っています。今日はゼロカーボンについて説明を聞きたくて参加しました。ホームページを見ると2050年のゼロカーボン実現に向けて、「富良野市職員ゼロカーボン自主行動宣言」というのがあり、素晴らしいなと思ったところです。

今から言うことは、ご検討いただけたらと思い、細かいことなのですが、自主行動宣言の10番目の「クールビズ・ウォームビズを原則実践します」という項目がありますが、北海道でも推進しているナチュラルビズにした方が、一生懸命働かされている職員の環境がより良くなるのではないかなと思います。可能であればご検討いただければと思います。

北市長

ありがとうございます。ナチュラルビズの導入ということです。今年はクールビズで30度を超える夏を超えてきたところですが、そういうこともあってか、ナチュラルビズに取り組む自治体も増えてきたようです。中富良野でも取り組みたい

という意向をもっているようです。沿線でも話し合う機会がありますので、そのような動きも判断しながらナチュラルビズについて検討していきたいと思います。

市民

ごみの分別について、ペットボトルについてCMなどでは潰してということが言われている。富良野市は潰さないでという記憶があるが、その違いや、私たちは潰した方がたくさん入るのでありがたいと思いますがどうでしょうか。

石出主幹

ペットボトルについては、潰しては駄目ということはありません。潰していただいて大丈夫です。ごみ袋を有効に利用してください。

4. 地域との意見交換

市民

私は持ち家を手放し、朝日町団地に住まわせていただいています。見晴らしもよくありがたいと思っています。3年前に熱中症になりました。住んでいるのは20戸ほどある中でも、私は真ん中ぐらいの年齢です。熱中症で倒れた時、気が付いたら病院にいて、あと10分遅れたら危険だったと言われました。その時に、家族に「クーラーがいてないの？」と驚かれました。

そしてある議員さんに団地にエアコン等を付けられないのはなぜかと聞いたら、「付けたいなら民間の賃貸に引っ越してください」と言われた。その時は腹ただしく思って、なぜと聞く気にもならなかった。今日は市長さんと懇談会があるということで、なぜ駄目なのかの理由を聞かせてもらいたいと思いました。

別の議員さんに聞いた話だと北麻町の方で体調が悪く大変だということで、何度か話し合いをしてエアコンをつけたと聞いた。なぜ駄目なのか納得ができれば、後付けのクーラーをつけようかと

も思ったが、朝から晩までつけていると電気代が大変だとも聞いた。でも命には代えられないとも考えています。今日はその理由を聞かせてください。

北川建設水道部長

今年の夏は暑かったので問合せをいただいているところです。公営住宅は国の補助をもらって建設しています。北海道の住宅は（全戸にエアコンを設置する）電気のアンペア数を用意していない現状にあります。朝日町団地は多くの戸数があり、皆さんが付けたいと言われると元々の線が細いので、付けられないという状況です。

北麻町のお話がありましたが、絶対に付けては駄目ですということではありません。窓枠に付けるタイプがあります。建物に穴を開けてしまうと、退去の時に原状復旧してもらわなければいけません。窓枠に付けるタイプだと通常 100V で対応できると思うのでお話をさせていただいています。また、付けるときは個人で負担をしていただいています。

一番大きな問題は電力量の引き込み線が大きな課題となっています。他の市町村でも北海道の公営住宅は同じ条件ですので、市町村の単独事業として整備しているところはあるかもしれませんが、基本的には北海道の公営住宅も同じような考え方で、ご自身で付けるのであれば窓枠タイプをお願いしています。

熱中症の関係でご苦労されていると聞いていますし、独居老人の方も見回りしなければいけないので町内会の方、民生委員の方に対応していただいています。

設置については学校施設もそうですが、電力の問題があるということです。個別には相談に乗れるかと思しますのでよろしくをお願いします。

市民

清流公園の木が大きくなり、今の時期になると

枯れ葉が家の前にあり、掃除するのがうちの仕事のようにやっていました。ごみ袋も自前で行っていましたが、町内の方に市から提供してもらえると伺って、市からもらっています。私たち夫婦も高齢になり年々負担になってきています。以前、公園の担当の方に相談したこともあった。

高校生も通るので少しでもきれいな方がいいと思ひ、個人的に行っていた。町内の方も伝えてもらえるということだったが、どうなったのかわからないので、このような場所でもお願いしたいと思ひて伺いました。

北川建設水道部長

樹木の関係は市内各所で話題になっています。今までは町内会や地先の方の協力で対応していただいたが、地域も高齢化となり、対応できないという話もたくさんいただいています。市では「緑の基本計画」という、まちごと公園というテーマがあり、緑地化を進めてきたところですが、木も太くなり、通行の支障になっているところもあります。全国的にも問題になっているところですが。

私たちが電線に架かっている場合は、ほくでんや NTT と協議して対応しているというのが1点目です。それから「強剪定」としてほとんど枝を払ってしまう作業があります。毎年実施できませんが、そのような方法がもう一つあります。

これからの時期、落ち葉が話題になるかと思ひます。町内会に相談いただき、対応していきたいと思ひます。

その他、危険木として判断した場合は伐採するという対応もあります。まずは現場も見たいと思ひますが、町内会に相談いただきたいと思ひますのでよろしくをお願いします。

市民

木がだんだん大きくなってカラスが巣を作るようになっていきます。保育所の子どもたちも公園に来るので、カラスが襲う感じになります。大人が

通っても襲ってきます。

また、木が大きくなり、午後からだの家が日陰になって暗くなってしまふ。せめて、線の下まで枝払いなども考えていただければと思います。

市民

毎年なのですが、除雪の際に仲通りの雪を道路にだして、年に数回カット除雪していただくのですが、その時に仲通りから出す雪をカット除雪だけではなくもっと取ってほしいという希望なのですがどうでしょうか。

北川建設水道部長

仲通りの除雪は外に出している状況は確認しています。カット排雪ということで、山になると見通しが悪い、通学の支障になるのでできる限り、まずはカットしているところです。

市全体として排雪はまちなかを2周しています。排雪を行うためには、ダンプが走るコースを選定して全体排雪を行っていますので、思うようにならないという現状です。支障になる部分があるのであれば、これから連合町内会長会議や広報で情報発信を行いますので、町内会単位で要望いただけるようよろしくお願いします。

市民

市の方で学校給食を3か月間無償にすると伺った。予算的にはかなりな金額になると思うが、その後はどのようにするのか。

佐藤教育部長

今回、市内小中学校の給食費10月～12月の3か月間は、保護者支援の観点から国の交付金を活用し、物価高騰対策として影響が大きいということで3か月分相当の給食費を助成することということになりました。その後については、また有償になります。

市民

市の単独で補助するような考えはないですか。全額ではなくても一部補助などの考えはありますか。

近内教育長

基本的な考え方として、学校給食は、給食センターの管理運営について市町村で負担しています。給食の材料費について各家庭に負担していただいています。比率にして施設管理運営費で7割、給食費で3割となっています。本市については給食費に係る分がおよそ8,000万円、1億6,000万円ぐらいが施設管理にかかっています。

全国的に同じような状況ですが、税金が多い市町村やふるさと納税等の財源があるところは無償化に踏み切っているところです。本市については法律改正や財源措置も含めて国に要望を出しているところです。今回は、あくまで国の物価高騰対策として国から財源がくるということで3か月分実質無料化としているところです。

近隣の市でこのような対策をしているところは中々ないような状況です。国に対して改善を求めていくところです。

学校給食センターも老朽化してきて、施設設備更新で莫大なお金がかかっていますが、自前で給食を提供することは最低限守る中でこういった形でできるのかを国に要望していきますし、検討もしていきたいと思います。

北市長

給食費の無償化ということで請願を受けましたが、対応することも含めてお話しします。請願の中には子育て世代で生活困窮を助ける意味で無料化できないかという内容もありました。給食費については、生活困窮世帯には既に支援をして無料になっています。他にも入学時にも支援など子育て世代に様々な支援をさせていただいています。そういったことから、給食費を単純に無料にすると

いうことは負担ができる人も無料になってしまうので、負担ができる方には負担をいただき、本当に困っている方へ支援をしていくということがあべき支援の姿かなと思っています。

無料化については、力のある自治体はできるが、そうでない自治体はできない、中には給食センターを設置できない自治体もあり、不公平をなくす意味でも、国が全国的に進めてもらうのがベストではないかと思います。全国市長会や上川総合開発期成会を通じて給食費の無償化について、既に無償化している市町村もありますが、加盟市町村の総意で国に求めている状況ということでご理解いただけたらと思います。

市民

何年か後に富良野高校と緑峰高校が統合になります。富良野高校の土地の所有権はどこが持つことになるのでしょうか。

これから富良野市と北海道との話し合いになると思いますが、市として利用法についてどのように考えているのでしょうか。

北市長

ビジョンという点では、まだ決まったものはありません。北海道の考え方としても統合した後の跡地の活用については検討していただいているようです。

意見として、商業関係で土地を利用したいという声も伺っていますし、行政関係で教育に資する目的であれば無償譲渡をするなど、北海道も色々と検討していただいているところです。そういった条件の中で行政として考えられる方策としては教育に資する施設、あるいは高等教育を誘致するというのが北海道の考え方に沿っているのかとも思いますし、行政としても地方創生人口減少対策としても、教育関係に資する学校の誘致が理想的かなと思っています。そういったことで、文科省や北海道とも話はしていますが、まだまだ先は見

えないということです。

市民

学校統合ということは人が少ないということで、若い人がいなくなると子どもも少なくなる。人口減少は全国的なことだと思いますが、富良野市として観光に力を入れていく、農業に力を入れていくという話があります。東川町をニュースで見ますが、唯一人口が増えて、福祉も良く、外国人の学校もあると、富良野市として人口を増やしていく構想があればお聞かせいただけたらと思います。

富良野はそんなに魅力がないまちなのでしょうか。

北市長

魅力がないまちかということは、そんなことはないと思います。その魅力を上手に伝えることができているという反省はしています。

人口対策で、引っ越してきた方に補助をするような自治体もあります。富良野市としての考え方は、まずはまちの魅力を高めていくことが1番かなと思います。魅力を高め、住んでいる人が楽しく生活できることが、情報が広がり富良野に行ってみようかな、住んでみようかなという気持ちにさせる、そんな取り組みを進めていくことで、地方創生人口対策に効果が表れることを期待しながら各種事業を進めていきたいと思っています。

先ほど、高校再編のことで、学校ということをお話しましたが、学校ができると学生が集まり、学生が来ていただくと色々な行動が表れ、経済にも貢献していただけるかと思います。大きな取り組みとして外国人の学校という、いきなり大きなものはできませんが、少しずつ要素を入れた取り組みを進めていきたいと思っています。

今、予算編成の時期にもなっています。一つひとつの事業の中で富良野の魅力につながるのか、どのような効果を及ぼすのかを考えて予算を立てたいと思います。

市民

まちの魅力というのも大事だと思いますが、働くところがないと人は住まないと思います。企業の誘致なども含めて、何年か前に南富良野町にポテトチップス工場ができて、単純に私たちは富良野市にできなかったのかと思いました。富良野に観光客はかなり来ていると思いますが、通りすぎるだけで他地域に行く人の方が多いと思います。人が増えない原因の一つがそこにあるのかと思います。

稲葉副市長

色々な手を打たなければいけないという状況で、今年の4月からシティプロモーションを積極的に行っていくため新しいセクションを作りました。少しずつ前に進んでいきたいと思いますので、今日に限らず、アイデアをお聞かせいただければと思いますのでよろしくお願いします。

市民

合同墓について、今は墓じまいなどが進んでいて、いずれかは合同墓に入るつもりの人もいると伺っていますが、見るとちょっと寂しいと感じてしまう。旭川とかと比べるとそう感じる。富良野の合同墓は少し寂しいと感じる。今後あれなら入ってみたいというような墓にできないものか。

山下市民生活部長

合同墓は、数年の議論を経て今の形になりました。色々な地域の合同墓を見て、建設費も加味しながら今の規模に至っています。

中に収容できる数は決まっていますので、建設費をもとに計算をして1人あたりの金額を設定しています。利用者の中には、通常の墓は負担が厳しいので合同墓なら負担できてよかったという声も聞いています。今あるものをしっかりと管理しながら長く使っていくことが最優先ですので、新

しいものを作るとか既存のものを改造するということは今のところ考えていません。今の合同墓が予定より早くいっぱいになり、次回の合同墓となりましたら、ご意見を伺いながら考えていきたいと思っています。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

市民

高齢なので、主人も車をやめることを考えていますので、こういうのは嬉しいです。8人乗りということで色々な人が乗ったら、病院の予約に間に合わないとかになるのでしょうか。

西野 SC 戦略室長

乗車の予約は、1週間前から30分前まで予約ができますので、最初に予約をした方が優先されます。そのルートに後から予約した方がいれば、乗り合いで乗車できるルートになっていきます。その後の予約については、ルートが合わない場合は最初の方を下ろしてから次の方が乗車できるようになります。予約が遅くなればなるほど、乗車時刻が希望に合わない場合があります。

稲葉副市長

ある程度時間の余裕をもって予約をしてもらうということになります。

市民

希望した時間にいけないということもあるのでしょうか。

西野 SC 戦略室長

希望した時間帯に既に予約が入っている場合は対応できなくなります。なぜなら車が1台しかないので。その代わりに、希望した時間以外に AI

が計算をして代わりの時間をご案内します。ただ、希望した時間の2時間以内に全ての予約が入っていた場合は、「ご条件にあう車両はありません」とご案内されます。

市民

ということは、同じ時間に希望した場合はどちらかが行けないということですか。

西野 SC 戦略室長

同じ時間に希望した場合、早く予約した方が優先されます。後の方は最初の方を下ろした後に対応するよう AI が計算をします。色々な方が利用することで AI が機械学習を行いますので、だんだん誤差を少なくして送迎できる仕組みとなっています。最初は戸惑うこともあるかと思いますが皆さんに使っていただくことで AI が機械学習を積み重ねて精度を高くしていきます。そのため長い期間の実証運行期間をとっています。

市民

100%要望に応えられないということで理解していいですか。

稲葉副市長

100%ではないということになります。

他にご意見がないようなので、最後に市長より一言お願いします。

北市長

1時間30分になりましたが、情報提供も含めて、熱心にお聞きいただき、また様々な地域、個人的な部分も含めて住んでいるの課題ということで貴重なご意見をいただきました。対応できるものは現況を確認してスピード感をもって対応したいと思います。

色々な計画や条例があり、それに沿って進めています。今の情勢に合っていないものもありま

すので、市民の皆様のご意見をいただきながら、変えられるものは変えていきたいと思います。お気づきの点がありましたら、市役所は昼間空いていますので届けていただけたらと思います。

AI オンデマンドについては、スタートするまでに色々な関係する団体・企業と協議をして今の形になりました。今後は、利用が増え、ご意見を聞きながら成長できる事業だと思しますので、将来改善できることも多々あると思しますのでご利用いただけるようお願いします。

最後になりますが、今日色々なご意見をいただき、市の事業に繋がるご意見もあったかと思えます。そうした皆様の声に感謝申し上げ閉会の挨拶に代えさせていただきます。と思います。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 10月16日(月) 18:30~20:10

場所 ふれあいセンター 2階集会場

参加者 26人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

今日は地域懇談会2回目ということで、ふれあいセンターにお集りいただきました。夏のあの30度を超える暑さが懐かしく思えるように、寒くなってきました。そういった中、大勢の皆様ご参加をいただいたことに心よりお礼申し上げます。

暑さで新しい課題が今年でてきたという状況です。子どもたちが暑さの中で勉強するというところで、なんとか暑さ対策できないかということ。既に冷風扇という大きなくくりで対策を講じているところですが、30度を超える日数が40日あったそうです。そうすると異常気象では片づけられない。暑さに対応できる教育環境、高齢者には生活環境を対応していなければいけない、新しい課題があった今年の夏でもあったかと思えます。

今回の地域懇談会の中で、テーマ・情報提供ということで、ゼロカーボンいわゆる脱炭素の取り組みと、AI オンデマンドというデジタルを活用した市民にとっての利便性確保という点について情報提供をさせていただきます。こういった大きなものに加え、様々なところ課題がでてきています。その課題の中で不安も大きくなってきているのかと思えます。その最たるもので人が足りないということがあります。北海道が認可をしている高齢者福祉施設が、人が足りないので経営を続けていくことが難しいということで閉鎖、一部の施設では人が足りないことを、施設を集約することで対応していくような新たな取り組みも始まっているようです。

こうした様々な不安ということ言えば、地域安全週間の推進になっています。犯罪件数は減っていますが令和4年までずっと低下していたものがちょっと上向いたということ。そういった

中で女性や子どもに対する犯罪、特殊詐欺というものが増えてきているということだと思います。

犯罪に対する不安、世情からくる不安、色々あると思います。不安を全て解消することということにはならないかもしれませんが、少なくともそういった不安を解消していく手だてとして、コロナで落ち込んだ地域のコミュニティを再開することが重要だと思っています。

そのよう中で、未来をつくっていく、新しい持続可能な富良野を構築していくことを皆さんと共有できればと思います。意見交換では忌憚のないご意見をお聞かせいただき、地域の発展と皆様の幸せにつながるような施策を展開していきたいと思えますので、ご意見、ご提案をいただければ幸いですので限られた時間ではございますが、よろしくお願いいたします。

出席者紹介

- ・稲葉副市長
- ・近内教育長
- ・関澤総務部長
- ・西野 SC 戦略室長
- ・山下市民生活部長
- ・柿本保健福祉部長
- ・川上経済部長
- ・北川建設水道部長
- ・佐藤教育部長
- ・小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行~稲葉副市長~

ゼロカーボンの取り組み

~石出環境課主幹 資料について説明~
市民

これは何年計画になっているのですか。

石出環境課主幹

ゼロカーボンロードマップにおいて 2050 年にゼロにするとなっています。2030 年にまず一つの目標として 48%減らすということになっています。

4. 地域との意見交換

市民

南麻町の公園に遊具を作っていただいています。事前に町内に何か報告などはあったのでしょうか。今作っているものを見るとすごいと思うのですが、今は公園遊具で事故なども起きていたりしているので大丈夫かなと心配しています。

北川建設水道部長

公園整備は、基本的に現在あるものを更新ということなので、同じようなものを設置させていただいています。おそらく複合型の遊具が設置されていると思います。更新事業なので、計画をたて順番に整備していますが、計画を立てる段階に利用者を含めて色々とお話をさせていただいている経緯がございます。

安全面の部分は、公園遊具は全部認証されたものを使っていますので、安全だにご理解いただきたいと思います。

市民

人材開発センターの周りに古い大木がズラッと並んでいる。学生も通るけれど風が吹いたら、枯れ枝がどんどん落ちてくる。あれを黙って見過ごしていたら、大きな事故が起きるのではないか。処理するにも相当お金はかかると思うが事故でも起きたら大変なので、ちょっと見てもらって検討してもらいたいなと思います。

稲葉副市長

人材開発センターの所長とも調整しながら、木

の古い新しいを確認して調整させていただき、すぐにどうかできるかわかりませんが、対策させていただきます。

市民

学校給食の無料化についてちょっとお伺いします。学校給食の無料化に関しまして、署名が約 3,000 あまり教育長に届けられたということで、先般新聞にも出ていました。私も署名させていただきました。それで無料化に関しては、10月から始まって3カ月間と聞いていますが、なんで3カ月なのかということを知りたいのと、その先どのようなことになるのかをお伺いしたい。

佐藤教育部長

今回の給食費 3 カ月は支援ということで行っていますが、保護者の負担支援ということで国の交付金を活用して、物価高騰対策ということで3カ月行わせていただくことになりました。

その後については、国の支援を得ながら行っていますので、それ以降については、保護者の支援は考えてはいません。その他、低所得者への支援ということでは、従前より行っています。今回は生活困窮者ということではなく、全世帯が実質無償になるといった事業です。

市民

無料化について請願ができましたが、それについて答えはでていないということですか。

稲葉副市長

請願については、市議会に対して「無償化を考えてください」と、「国に対して要望してください」ということです。市に対しては署名が要請書という形で来ていますので、国に対して要請をしてくださいということですが、それはもう既に色々な機会を通じてさせていただいています。給食費を決定しているのは、富良野広域連合で決

めていますので、市が直接給食費を無料にすることができません。広域連合を組織する沿線自治体でどうするかを協議しなければできません。

市民

他の市町村で無料化しているところはないのですか。

近内教育長

前段に基本的な仕組みを少し述べさせていただいて、その後質問にお答えしたいと思います。

憲法の中では教育無償化と言っているのですが、その中身というのは、授業料と教科書については無償ですけれど、給食に関しては国の判断として無償化とは言っていないのです。学校給食の中では、施設の管理運営、調理などについては市町村や自治体、富良野市では広域連合が経費を全て見ます。食材費については保護者の負担と学校給食ではなっています。ただ、最近の国の言い方としては、経済対策として子育て世帯が厳しい状況の中で、それぞれの自治体の工夫によって、財政的な負担をしていくのは構わないとなっています。国も無償化とは言ってなく、実質無償化ということで、例えば紋別市や根室市などふるさと納税額が大きいところは、基金を組む中で無償化にしています。もう一つの形としては、対象となる子どもがごく少ない自治体はそのような対応をしているところもあります。多くは本市のように国の経済支援対策などを利用して物価高騰対策として、保護者に対して助成を行っている状況です。

市民

学校給食の無償化について、先ほど市長から話がありましたが、雇用が中々大変だということでした。その雇用確保するためには、行政として若い子育て世代に優しく、住み良いまちにしていかなければ若い人も住まなくなる。他所からこない

となるとだんだん雇用も大変になってくる。

そうするためには財源が必要だっていうことはわかります。ふるさと納税の話もありましたが、富良野市は令和2年に1億なかったのが、令和4年には8億8,000万ぐらい。根室や紋別みたいに130億は海水産物があるからだと思いますが、ふるさと納税は、国が弱い地域に対してふるさと納税を使って財源を確保しなさいということですよ。ですから富良野に関しても、地域おこし協力隊を雇用した中でどんどん伸びています。まだ伸びしろは、あると思います。ふるさと納税にまだ力を入れていただいて、財源を確保して若い世代が住み良いまちにしていかなければ、だんだん富良野市の人口も少子高齢化で減って、過疎化がどんどん進むのかなと思います。

北市長

若者が生活しやすい快適なまちづくりをということだと思います。その入り口で給食費の話ができましたが、子育て世代への支援というのは十分ではないかもしれませんが、かなりの手だてをしていると思っています。昨年は高校生まで医療費無償化をさせていただきましたし、給食に関しては、今回の請願では生活困窮している、あるいは子育てをすることで負担が増えていることを軽減できないかということでした。

いわゆる困っている方々へ支援をするという部分につきましては、低所得世帯の方々については、すでに無償化をさせていただいています。その他にも入学時の支援など様々な部分でさせていただいています。

子育て世代の支援ということで、要望いただいた時にもお話をさせていただいているのは、今必要なのは、社会全体で子育てをしている人たちと協力しながら、いわゆる共創という形で子育て支援にあたるのが適切ではないかという考えでありますし、子育て世代の方々にもそのようなお話をさせていただいています。その考えからしますと、

完全に給食費を無償化するということよりは、給食費を支払うことができる方々は負担していただいて、その分で本当に困っている方々に支援を厚くするという形の方が、社会全体で子育て世代の方々に支援していくことにつながるのではないかと考えています。

無償化については、全国市長会などで学校給食の無料化について要望はさせていただいています。自治体の中で支援しているところもあります。先ほどふるさと納税で財源確保をして支援できるのではないかとありましたが、それも自治体にとっては様々な格差があるかなと思います。

そういった格差の中で、無償にできるところとできないところ、もっと言えば給食センターを設置できない自治体もあるわけですから、自治体間の不公平もなく、平等に無料化するということについては、国がやはり手掛けていただかないと実現できないかなと思っています。

そういった中では全国市長会、上川総合開発期成会という上川管内 24 自治体の合意の中で無償化できないかと国に要望させていただいています。無償化がないということではなく、国が負担する無償化にむけて自治体も頑張っているところです。

市民

はい。わかりました。

ふるさと納税の話がありましたが、まだまだふるさと納税は集められると思います。今は農産物が6割。観光でブルーリッジのボールボーイやウグイス嬢もふるさと納税で取り扱いをしている。色々なものがあるのでふるさと納税を集めて、できる限り若い世代の施策としてやっていただければと思います。

稲葉副市長

ありがとうございます。ふるさと納税をもう少し力入れるという応援と受け止めさせていただき

ます。ふるさと納税は地域おこし協力隊も含めて色々な手立てをしています。市だけではなく作る側も色々なアイデアをいただいて取り込んでいきたいと思います。

市民

地域の要望ではなく、スポーツのことで要望させていただきます。スポーツ施設についてスポーツ協会にお願いしていますが、厳しい状況もあると伺っています。野球については、少子化でチームの維持するのも大変な中で野球を楽しんでいる状況です。今年の夏は非常に暑く熱中症の危険な日があり、限られた土日を使って試合を実施していますが、熱中症の危険があり試合を延期したこともありました。

野球場のベンチについて、熱がこもるような作りになっており、大人が複数名ベンチに入り子どもたちの様子を伺い、審判団も気にしていました。その中でベンチの後ろをくりぬいて風通しを良くすると違うのではないかと意見がありました。少しでも環境を整えてもらえたらと思います。市民野球場については扇風機のような風を循環できるようなものがあればより良いのではないかと思います。子どもたちが健康管理の分で改善できるものはお願いしたいと思いました。スポーツ協会には要望をさせていただいていますが、このような場でも聞いていただきたいと思い発言しました。

山下市民生活部長

スポーツ協会では各団体や利用者からの意見を聴いており、日頃よりコミュニティ推進課でもスポーツ協会から意見を伺っています。特にこの時期には、次年度予算要求に向けて各団体からの意見や要望をまとめていただいております。利用者の声を伺って対応していきたいと思います。予算のこともありますが、工夫で対応できることはしていきたいと思います。

市民

子どもたちが一生懸命やっている姿を見て健康面だけは大人がしっかり対応していかなければいけないと思い発言しました。

市民

近内教育長に心えていただければと思いますが、富良野はいいところだと思っています。ぜひ、富良野に移住してほしいと思いますが、何が魅力になるのかを市の先頭になって考えてほしい。

2点目は医療のことについてです。協会病院の充実にもっと力を入れてもらいたいと思います。どうしても他の地域の病院に行く人がいます。できれば基幹病院として充実を市の方でも考えてほしいと思います。

移住の件と医療の件について市としての考えがあればお聞かせいただきたい。

近内教育長

教育に携わる中で移住にしても医療しても、人づくり、人の確保が大切だと思っています。地域づくりは人づくり、人づくりは教育もありますし、地域で人と人が関わる中で、富良野はいい街だとコミュニティがしっかりしている中で、ここで安心して子育てがしたいと思ってもらえるまちにしたい。色々な活動を通じてまちをアピールできることを教育という限られた中で対応していきたい。

医療だけではなく福祉も含めて、子どもたちを安心して生み育てられる、高齢化が進んでいる中で、人づくりという観点で富良野に住んで医療や福祉のサービスを提供できる環境づくりをしたいと思います。いずれにしても私が考えているのは人づくりという点を大切にまちづくりをしていきたいと考えています。

市民

市の職員で役を複数兼ねている人がいるが、これは人が足りていないということですか。1人で

3つも役を持っていると手が回っているのかと思います。以前から見ると職員数が減っていて大変じゃないかと思いますがどうでしょうか。

関澤総務部長

富良野市の職員数は減っているのは事実としてありますが、役職を兼ねているというのはそれぞれの業務にボリュームがありますので、1人工をあてるのかあてるまでの業務なのかどうなのかということがあります。職員が大変になっている部分がないとは言いませんが、兼務の部分についてはトータルで業務を進められるという判断で割当をさせていただいています。

市役所が行う分野が昔に比べて増えているのも事実で、新たな業務のボリュームが増えてきましたら新しいセクションを立ち上げています。先ほど話題になりましたが、令和5年4月からはシティプロモーション推進課ということで専門の職員を配置しています。兼務で行うものと難しくなったら新たなセクションを立ち上げることを検討しながら、職員に負担がかからないよう毎年検討を行いながら職員採用も含めて行っています。

市民

もう一つ聞きたいことがあります。ゼロカーボンについて、電気とか節約ということ我々も取り組み、で国も言っていますが、スキー場の電気が煌々とついています。スキーのシーズンならわかりますが、夏も電気がついていました。市ではどうもできないのでしょうか。もう少し経済面を考えないと、市民も考えているのだから考えてほしい。すごくもったいないような気がします。

川上経済部長

すみません。聞いておりません。

市民

富良野高校の跡地についてどうなるのか気に

なっています。

近内教育部長

富良野高校が令和7年4月から緑峰高校と一緒になるということで空くわけなのですが、道立学校で道有地ということで現在まだどうなるのかというのは道や道教委では決まっていなくて伺っています。我々地元の総意としては、教育関係で一体的に整備を考えてほしいと要望しているところです。今後検討される中で地域要望を聞いていただけるようにしていきたいと思っています。

市民

副市長にお聞きしますが、新聞にも出ていましたが、6月の児童手当の支給が遅れたなどがでていました。担当者がって新聞にはでていました。普通は誰かが管理した中でやると思いますが、その管理についてお聞きしたいと思っています。

稲葉副市長

6月の児童手当、この前の追徴についてミスがあったと新聞に公表させていただきました。誰かがということより根本的に何にミスがあったのかということを知り、二度と起こらないようにするためにどういうことをしなければいけないのかということを知り、都度確認させていただいています。ダブルチェックなどチェック体制の強化をして再発防止に努めたいと思っています。ミスは最小限にして早めに対応し、市民の皆様にはなるべく迷惑をかけないようにしたいと思います。

市民

ミスはゼロにならないと思いますが、チェックなどをして減らせたいと思いますので、これから前向きに検討してください。

市民

ゼロカーボンについて、年々気温が上がって

るのは身に染みてわかっています。昔は「いい雨だな」と静かな雨がりましたが、最近は静かな雨が降るようなことがなくなった。本州のような大雨でまち全体が水没するようなこと、こちら辺も水没するようなことが起きなくもない。その時に私たちはどうしたらいいのか。避難場所は指定されていますが、訓練もしたことがないし、実際に災害が起きたらどうなるのかという心配があります。ゼロカーボンと合わせて、気温が下がって落ち着くならいいですが、そうならないと思いますので、ゼロカーボンもなんとなくわかっている人はわずかだと思いますので、もっとわかりやすい説明をいただきたいのと、災害の対応を考えてもらいたいと思います。

稲葉副市長

ゼロカーボンについては色々な機会の説明をさせていただきたいと思っています。防災の関係については担当より説明します。

関澤総務部長

市では、災害対応について自助、共助、公助ということで市民の皆様をお願いをしています。市民の皆様お一人お一人で災害に向けて準備をすることはどういうことがあるのだろうか、地域で助け合いができることはどういうことがあるのだろうか、またそれらではカバーできないことを行政機関でどのようなことがあるのだろうか、ということを行って行っています。先日、防災ガイドマップを送らせていただきました。その中には市民の皆様に準備をしていただきたいことも載せさせていただいています。合わせてハザードマップも載せています。この内容については市ホームページに掲載されています。

各町内会単位で自主防災組織を作っただけはないかとお願いもしています。共助の部分はどういった形で進めていけるのか。どう作るのか、どう活動していくのかという点について、出前講座

としてお邪魔している部分もありますので、地域でも話題にさせていただいて、町内会を通じて要望していただくこともできるかと思えます。

防災訓練の在り方について、地域の方が参加していただくものもありますが、ここ数年はコロナの影響で開催できていませんでした。市として災害が起きたらどのように対応するのかは机上ではありますが毎年行っています。防災訓練全般について今後どのようにしていくのかは検討しています。まずは地域で話あっていただきたいのと、こういったものを参考にさせていただきたいと思えます。

稲葉副市長

市には地域防災マネージャーという職員もいます。先日東小学校に防災訓練教室を行いました。専門の職員もいますので活用していただけたらと思えます。

市民

防災ガイドマップが宅急便で届きました。市の広報とは別に夜届きました。町内会としてはいい迷惑です。一回で配布できることを、私も仕事をしているのでそんなにそんなにできません。それでなぜ宅急便で届けたのですか。

関澤総務部長

広報紙とまとめるとボリュームがすごく大きくなるところもあるものですから、それが負担になるのではないかと分けてさせていただきました。今、お話をいただいたように二度手間になるということをお聞きしました。私どもとしては負担を少なくできないかと思って行ったことですが不十分な部分がありました。

市民

なるべく広報とか配布物は一度にお願いしたい。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

市民

AI オンデマンドのお金の支払いはどのようになりますか。

西野 SC 戦略室長

お金の支払いにつきましては、こちらの車両に乗っていただいて降りる時にドライバーの方にお支払いいただく形になります。

市民

樹海学校の近くにいる地域の方など、どんなに遠くても近くても 300 円になりますか。

西野 SC 戦略室長

利用いただけるのは市民であればどなたでも登録できます。利用できる範囲というのは、市街地 50 か所の乗降場所から乗降場所までになりますので、この移動であれば 1 乗車あたり 300 円という内容になっています。範囲内で今実証運行ということで考えています。

稲葉副市長

他にご意見がないようですのでこの地域懇談会を閉めたいと思えます。閉会にあたり北市長よりご挨拶を申し上げます。

北市長

それでは 6 時半から 8 時 10 分過ぎということで、長時間にわたって、こちら側のテーマ、あるいは情報共有ということで AI オンデマンドの関係についてお話をさせていただきました。熱心にお聞き届けいただき、まだまだわからないところがあるかと思えますが、今日全体の雰囲気を見て

感じたことが一つありまして、現場と我々行政側の思いが、みんな目的は一つでみんなが便利に、みんなが利用しやすいよう、あるいはみんなが活用しやすいように、そしてそれぞれ町内会についてお手伝いいただいておりますが、苦勞が少ないように配慮しながら行っていますが、現場と行政側の見ているところが違って目的が達成できていないと感じさせていただきました。それを埋めていくには、常に思いや意見を届けていただけたらありがたいと思います。総合計画でも共創で市民の皆さんと行政が一体となって、お互いに努力、協力しながらまちをつくっていく、まちを魅力あるものにしていくという総合計画になっていますし、それを実現できるのは、そういった動きかなと思います。情報共有がいかにか大切かということだと思いますので、引き続き行政の方に皆様の考え方を届けていただけたらとありがたいと思います。

今日のテーマにありました、ゼロカーボン、AIオンデマンド交通、これらはただ単に利便性に、あるいは環境にということだけではなく、地域の魅力にもつながりますし、この制度を活用していくことで、今なかなか経済が落ち込んでいて、これの回復の兆しが見えないところではありますが、そういった経済の動きにもつなげていきたいというところではあります。

一つのことをやるのに2徳、3徳とちょっと欲張りなところはありますけれど、そういったものを成し遂げていかなければいけない、今の時代というふうに思っています。それだけ時代の変化が多種多様になってきていて、また急にもなっています。そういったものを地域懇談会あるいは地域の皆さんからのご意見をききながら、一つひとつ解決していきたいというふうに思います。

ぜひこの後も、引き続き行政と皆さんと協力しながら、まちづくりに努めて参りたいと思いますので、協力をよろしく願いします。結びになりますが、行政の大きな主題としては、やはり皆さんの健幸と、そして幸せを感じられるまちづくり

ということです。ぜひそういったものが、叶えられるように、また皆さんの一緒に幸せを感じられるように、皆さんのご意見をお待ちしておりますのでよろしく願い申し上げます、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 10月18日(水) 18:30~20:00

場所 西地区コミュニティセンター

参加者 25人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

今日は西地区コミセンでの地域懇談会ということで、北の峰の山も中腹まで白くなってまいりまして、大変寒い中、そして夜分お疲れのところこのように大勢の方にお集りいただきましたこと、心からお礼申し上げます。

地域懇談会ということで、今回はテーマとしてゼロカーボンの取り組み、そして情報提供としてAI オンデマンド交通の関係について説明させていただきます。どれも富良野市の将来にわたって市民生活の安全安心、そういったものを支えるための取り組みとなります。ぜひ、こういった事業を今年から始めたばかりの事業ですが、まだまだ改善、あるいは良いものにしていくため、皆様のご意見を聞かせていただきながら、充実した事業にもしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただけたらと思います。

また、地域との意見交換で、富良野市の将来にわたって住んでいる方が楽しく、健康で幸せを感じられるようなまちづくりを進めさせていただいておりますし、それぞれの地域の中でこれまで少し停滞気味でありました、コミュニティの再生にもご尽力いただいているのかと思います。

基幹産業の農業、観光においても課題が生まれた1年かと思えます。そうした部分についてもご意見をいただければと思いますし、新しい事業については意見交換の中でご報告させていただければと思います。ぜひ今日の短い時間かもしれませんが、今日の地域懇談会が実りの多いものになりますよう皆さんにお願い申し上げ、開会にあたってのご挨拶に代えさせていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

出席者紹介

- ・稲葉副市長
- ・関澤総務部長
- ・西野 SC 戦略室長
- ・山下市民生活部長
- ・柿本保健福祉部長
- ・川上経済部長
- ・北川建設水道部長
- ・佐藤教育部長
- ・小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行~稲葉副市長~

ゼロカーボンの取り組み

~石出環境課主幹 資料について説明~
市民

ちょっとお聞きしたいのですが、今のまま 2100年になったら、(気温が) 4度ぐらいあがると説明がありました。ちょっと湿った雪が降ることでした。もっと具体的に教えてください。TVでは北海道では採れなかった魚が採れるとか、具体的に富良野ではこういうことが起きますから、ゼロカーボンに皆さんで協力してくださいという例を教えてください。

石出環境課主幹

今、具体的に雪という部分で湿ったものが増えるというのが一つです。あとは、道総研というところと一緒にコラボしたセミナーで話がありましたが、農業の部分で今の雪解けが1カ月早くなるので、3月中には全部雪が溶けてしまう。そうすると一気に溶けるので、水分が一気にでるので斜面傾斜地などでは土が流れてしまう。雪が早くなってしまうので、十勝の方では今もあると聞いていますが、春に砂塵が舞い、砂嵐が起きやす

くなるので葉っぱなどに付いて生育に影響がでるのではないかとされています。

市民

富良野は農業と観光ですが、観光では何か影響がありますか。雪がなくなるからスキー場に来る人がいなくなるとか、野菜はちょっと作物が採りづらくなるとか、こういったことがあるためにゼロカーボンに向かっていくということですが、今はゼロカーボンに対して説明がありました。こんなこともあるんだよ、だから皆さん協力してください、とだと思ったのですが違いますか。

北市長

補足になるかわかりませんが、私の方から少しお話をさせていただきます。今年の天候も言ってみれば温暖化、異常気象ということで片づけていますが、温暖化の兆候が表れた気候だったかなと思います。そのような中で、影響を受けていることなのですが、農業においては、当初温度が上がれば北海道が寒いということから、お米の品種改良を進めてきました。これだけ温度が上がってくると良い効果になるかと思っていましたが、結局温度が高すぎて、そして雨が降った後も 35 度という温度になると、農産物には病気が蔓延していきます。そのようなことで、ビートは病気がついて糖度があがらない、お米も特Aという品種が北海道に3品種ありますが、収量はそこそこ取れていますが、品質が一等米の割合が下がっている。あるいは玉ねぎも高温で畑の中で煮えたような状態になっていました、病気とか消費地に着くと傷んでいるような現象が起きているようでありました。

また、今もこの地域も熊や鹿の鳥獣害が問題になっています。熊が人里に出てくるのも高温のせいで、山のどんぐりが育たないという環境があるようです。自然もいわゆる温暖化の中で自然体系が崩れているということで、生活の環境が変わるのは動物だけでなく人間の環境も変わってくる

ということですから、例えば子どもたちにとっては、勉強しやすい環境ということも今年の夏では問題になったように、観光も本来だと北海道は涼しいところというイメージがあって、夏の観光に訪れていただいていたわけですが、これも本州より暑くなってしまったら、そういった足も遠のく。様々なところで想像できることは、今お話ししたぐらいのところもかもしれません、様々な影響がでると思っています。ゼロカーボンを富良野で達成して、地球規模の今問題になっているのが解決できるかといったら、どれだけの効果があるかわかりませんが、人間として人類としてやはりこれだけの環境に負荷を与えてきたわけですから、その改善に取り組むのは、効果以前に意識の中で高めていかなければいけないと思っています。十分な説明にはならないかもしれませんが、ご理解いただければと思います。

稲葉副市長

色々な例を含めながら、もっと具体的に皆さんには説明をさせていただきたいなと思っています。

4. 地域との意見交換

市民

自分はスキー場の近くでスキーに関わる仕事をしていますが、富良野は農業と観光だと、私は観光についてお聞きしたいと思いますが、冬の観光ってスキーリゾートにくるお客さんが大半だと思いますが、スキー場は一つだけで、具体的に言いますと北の峰のゴンドラは、かなり前からありますが、今後どれくらい使うことができるのかというのが、スキー場のことなのでどこまで行政が関わりを持つのかはよくわかりませんが、ただスキー場だけのことではなく、停まったり、壊れたりするとスキー場だけの問題ではなく、北の峰旅館組合だけではなく、市内のホテルとか多くの観光業に結構大きな打撃を与えると思っていますが、その辺は何か把握していることはありますか。

川上経済部長

スキー場のゴンドラ、あるいはロープウェイ色々あると思いますが、やはり富良野観光にとって冬の観光にとって、夏も使っていますが、スキー場があるということが非常に誘客に繋がっています。ゴンドラにつきましては、やはりかなり年数が経っていることは感じてはいますが、プリンスホテルの投資計画等に関わるのかなと思っています。少しお話をしますと、プリンス（西武）さんが保有する国内の施設をどのようにしていくのか、今後の計画・方針の中で検討した結果、施設を売却し運営を継続する方法を選択する一方、富良野プリンスホテル、富良野スキー場の所有を継続するとともに、全国3カ所、軽井沢、箱根、富良野に重点的に投資を行っていく方向を打ち出しています。富良野市としてもプリンスさんと情報交換を行いながら、施設に投資をしていただけるよう努力していきたいと思っています。

市民

富良野にプリンスとして力を入れていくということですが、北の峰の旧プリンスホテルがかなり老朽化してきており、今後使うのかというのかなり怪しい状態で、かなり北の峰に対して力を入れていない。あまり気にしていないような状況を感じ取れると思います、そうなってくると本当に北の峰のゴンドラ大丈夫かなと思います。市としてプリンスに投資をしてもらうことを願うということが行政としてできることなのかもしれませんが、急に故障したりした時の打撃を考えると、北の峰旅館組合とか商工会議所とかも含めて全体サポート、まわりのビジネスをやっている人も北の峰のゴンドラから恩恵を受けていると思うので、それをバックする形で未来につなげられる方がいいのかなと思います。どう思いますか。

川上経済部長

おっしゃる通りだと思います。それで、市長も毎年、プリンス本社に伺って社長と意見交換や、投資についてはお願いをしています。確かに施設は老朽化していますが、しっかりと安全基準は満たされていると思いますので、今のところは大丈夫かなと思いますが、市としても非常に重要な観光資源という認識ですし、今後も意見交換する場面はありますのでしっかりと行っていきたいと考えています。

北市長

私の動きということでお話をさせていただきますが、プリンスホテル（西武）が固定資産の扱いを決断する前、富良野のプリンスホテルを残していただきたいということと、三大リゾート地を重点とすると決定した後も、現在の会長、責任あるトップの方とお話させていただきました。この後のプリンスホテルとしての投資、あるいはスキー場の改善に向けても努力をしていただきたいということをお話させていただいています。スキー場のリフト、ゴンドラそういったものもありますし、北の峰のプリンスホテルについても補修をかけて再利用できるようにということで検討はされていましたが、コロナで動きが止まった状態です。これが経営改善というか観光客の足も戻ってきておりますので、そういった中でプリンスホテルとしても改善に向けた動きがあるのかなと思います。

また、富良野市としても北の峰のプリンスホテルは、コクドが初めて富良野に入ってきて整備したもので、一つの象徴のようなものになっています。この後、ご指摘いただいたようにプリンスホテルの方に伝えさせていただき、行政とプリンスホテルと連携しながら、地域の振興、発展などに努力をしていきたと思っていますのでご理解いただければと思います。

市民

今の関連で、私がプリンスホテルの総支配人と話しをする機会があり、今プリンスのゴンドラ関係では技術屋さんがないということで、オペレーター、あるいは整備する方が確保できないというような話をしていました。

ただ、まだ何人かのグループでやっているようですが、今後人材を確保していかなければ極めて難しいとのお話を伺いました。今このインバウンド関係でプリンスさんにはお客様それなりに来ているということでありませうけれど、やはりコロナの影響や外資系のインバウンドが来られていないというのが現状だそうです。ホテルの一部では営業していないということをお聞きしました。ワールドカップとはまで言いませんが、基軸となるようなスキー場を運営とあるいは行政なりの支援というものを、今後していかなければプリンスの存続も難しくなっていくのではないかと思いますので、連携調整をしながら守っていただきたいなというふうに思います。

そういった面で地域課題という部分で観光の話がでしたが、北の峰を含めた観光振興計画がしばらく見ていないと思います。地域にいる中で北の峰とまちなかとの連携をしながら観光をどのように捉えていくのかという新たに計画づくりが必要になってきているのかなと。町内会でも戸数が減少しているところで外資系が土地等を買収されながら、建物が建っていますが外資系で北の峰の観光資源が成り立っていくのかとそうではないと思います。やはり地元の手作りによる地域が受け入れる。あるいは地域にある旅館組合等が受け皿、そういったものを合わせて、観光振興計画を新たに再構築していかないと、これまでのような観光の在り方では富良野は存続しないのではないかと思います。日本国内人口の旅行客は相当減少しているということになれば、国際的な部分を見据えた観光づくりをしていただきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。

川上経済部長

過去には富良野市の観光振興計画があり、下部に山部、東山などの地域振興計画がぶら下がっていました。今、その観光振興計画がリニューアルされ富良野ビジョン 2030 という 2030 年に向かってこういう観光地を目指していこうというようなものを示した指針があります。それに向けて今、富良野の観光地づくりが進められています。北の峰は富良野市の観光の核となっていますので、北の峰地域の将来目指すような姿も描いていますので、その方向に少しでも近づけるようにしているところです。

今、推進をする組織や財源について議論を行っていますが、進めていく上は、推進母体とお金の2つをなんとか工面していくような状況です。

市民

寒くなってきましたので雪のシーズンになります。毎年除雪のことで町内の方からよく言われているのは、だんだん除雪が手薄になってきているのではないかということ。幅が狭いという町民の声が結構くるので、その都度担当者に話をしています。家の前にドンと置かれているという声も聞きます。今年度は、その辺は大丈夫なのかなと、またあったら市役所に行かせていただくのですが、その辺をちょっと教えていただきたいと思って質問しました。

北川建設水道部長

除雪につきましては、これから皆様に色々と協力をしていただかなければいけない時期になっています。決して手薄にしているわけではございません。今の出勤基準は 10cm 積もったらというのは変わっていませんし、どうしても雪を寄せていく作業になりますので、だんだん道が狭くなっていくということがございます。そういった時は排雪をかけながらやっております。色々な町内会から連絡がきますので、私たちもパトロールをしな

がら、危険箇所等を含めてやってはいますけれど、お気づきになった時は、町内会を通じて連絡をいただいで、現地を確認させていただきながら対応していきたいと思ひます。決して手薄ということではなく、今まで通り行っているというのが現状です。もつと言へば人件費や燃料代も上がっており、これからかかってくる費用も大きくなるだろうと予想してはいますが、そういった部分については予算を確保しながらきちんとやっていきたいという風に思っています。

市民

排雪は年2回ですか。1回ですか。昔は年2回ぐらいやっていたのですが、ここ数年は年1回ちょっとかなと。排雪の規定は何かあるのですか。

北川建設水道部長

昨シーズンは、年2回市内全域を排雪しています。基準というのはそんなにありませんが、大体お正月前に神社まわりから始め、雪を捨てる場所までの道を確認するため、ダンプが通る道路を優先的に排雪してはいきます。その後各町内会をグルッと回って行っており、それが1月10日前後になり大体2週間ぐらいで市内全域が一回りします。その後雪の量にもよりますが、もう一回りを同じ順序で行います。その他にも山部や東山など農村部も回らせてはいただいでいます。雪の量になると思ひますが概ね2回と考へていただければと思ひます。

市民

排雪の日程は教へていただけないでしょうか。教へるとみんな家から出すということで、大変だということは聞いてはいたが、そんなに思ひっきり出さないのだから、排雪の邪魔にならない程度に出すのであればいいのかなと個人的な考へですが、その辺はどうでしょうか。

北川建設水道部長

排雪につきましては、まず雪の処理について自宅の雪は自宅で処理してはくださいというお願いが1つあります。朝5時ぐらいから除雪が回りますが、その真つ暗な時にも実は出されている方が結構いらつしゃいます。そうなると暗くて人がいると非常に危険です。そういった部分もあるのでまずは道路に出さないではくださいというのがまず一つ。排雪についても同じように事前にわかてしまうととととと家から出てきてしまうと、ダンプ1台につきという契約になっているものでし、今までは1日でできたところが1日半かかり、時間だけがかかて、次の地域に行く時間が非常にかかるともあります。できる限り、排雪については道路の雪を持っては行って道路幅を広げる、または歩道の雪を処理するという部分で行っていますので、その辺はご理解いただくとしかならないと思ひますのでよろしくお願ひします。

市民

排雪の関係で今聞きましたが、私は早くから家の前を除雪しますが、その後を除雪が来てまた寄せられるわけです。そういうことが結構ありましたが、押した雪は持って行ってもらわないと困りますが、そういった苦情はありませんでしたか。

北川建設水道部長

除雪の時間帯は幹線道路、通学路については朝7時30分までにあけるようにしてはいます。ただ、朝5時に行くところと7時に行くところがあり、朝早く除雪をした後に、間口に置いては行かれてしまうことになろうかと思ひます。二度手間になってしまうかもしれないが、そこだけ早く行くなどではできないのだからご承知おきいただければと思ひます。あえて山にしていくようなことはないと思ひますが、何かの都合で動かせないような塊がありましたら連絡いただくとすれば対応します。

市民

市の職員採用についてお話をさせていただきたいと思います。今の冬の除雪とも関係ありますが、冬の除雪体制について、今年も委託で行われると思いますが、問題は人手不足ですよね。運転手、オペレーター関係等の確保が今年の段階でどうなるのか。今後における課題として、従来の委託方式一部直営でされていますと思いますが、行政側としても人の確保が必要ではないかと思います。

今、特に課題になっているのが、人材の確保の問題、やはり技術系、あるいは保健師、保育士関係など有資格者の確保をどんどん進めていかないと、今後市民サービスに見合った職員定数がいなければならないという時代がくると思います。そういった面で考えると、先々で採用しながら、財政的なことはあろうかと思いますが、先を見通した人材確保をすべきでないかと思います。方向性を作られていると思いますが、考えを教えてくださいたいと思います。

もう1点について、新庁舎ができて職員の皆さんも活発に業務が進められていると思いますが、昔と比べると事務スペースの中で、職員対話、仕事の関係プレイなどそういった行動はどういう場で作られているのかなと。以前は会議室とかでミーティングをしながら業務を行っていたように思います。今はパソコンなどで電子会議的なことが行われているかわかりませんが、職員の対話についてどういうふうに体制が作られているのかなと思います。職場づくり、人づくりが大切ではないかと思います。

もう一つには、新庁舎の駐車場について正門がいつから供用開始になるのか、まだ広報等でも周知されていないのでどうなっているのか。

北市長

大きな意味での人材確保というところで、私の方から少しお話をさせていただき、それぞれ部長よりお答えさせていただきます。人材確保につい

ては、今までも中々雇用が十分に確保できていないということで、農業や土木については海外からという状況も生まれておりました。しかしながら、現状では、先ほどご指摘をいただいたとおり保育士も足りない、あるいは農業のお手伝いをさせていただく方も十分じゃない、観光も先ほどご指摘をいただいておりますが、観光事業に関わる方々も雇用がなく、十分に事業展開ができていないというのが今の実態です。

今年の春からこのことを重点課題として、雇用確保に向けた対応を今検討しているところです。民間の方からもご意見をいただきました。また、庁舎内では行政としてできる方策ということで今検討、内容精査のまとめを行っています。これらまとめたものを民間の方々と意見交換させていただき、次年度に向けて対応できるものは、予算を確保しながら対応していきたいと思っています。人材確保というのは大きな課題となっています。富良野市の産業構造も変えるのではないかとはいくぐらい、重大な案件ですので、慎重にそしてスピード感をもって対応していきたいと思っていますのでご理解いただければと思います。

関澤総務部長

市役所の人材確保について、現状は事務職員については概ね募集をした分については確保できています。ご指摘のとおり技術職については、募集をしても応募がない状況もあります。そういったことについては、専門学校や大学などへアプローチしながら、富良野に来ていただける人を確保しようと、今努力しているところですし、職種によっては前倒し採用を一部行っているところで、その職種の人がいなければ業務が進まないということにならないように、確保できていないところはお互いにカバーしながら進めているところです。皆様にはご迷惑をかけないよう人材確保については努めていきたいと思っています。

もう1点、職員の会話について、イメージは以

前とそれほど変わっていないと自分は思っています。1人1台パソコンが割り当たってしまっていて、連絡調整とか意見交換などができる機能もあり、距離が離れている職員とも連絡や調整が取れるような活用も今できています。仕事の部分で報告、連絡、相談は当然変わっていませんし、重視をしているところです。不十分に思われることについては、そう感じられないよう努力をしていかなければならないと思いますのでご意見として承りません。

最後に駐車場についてです。新庁舎に移行し、旧庁舎を取り壊すことで昨年から行っています。駐車スペースが十分に確保しきれない部分もあり市民の皆様にご迷惑をおかけしているところです。駐車場については、現在、外構工事を進めています。工期については11月末、12月1日から市役所南側の駐車場100台以上止められるスペースが開放できます。旧文化会館跡地も駐車場になります。南側の駐車場について、いつから使えるのかについては、広報等でもお知らせしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

稲葉副市長

駐車場について、間違いなく12月から使えるのですが、それを何とか少しでも早くできないかということで、正式に供用開始する日にちが確定しきれないなので、工事の状況によってできるだけ早く使えるよう、わかり次第皆様にお知らせをしたいと思っておりますので、もう少しご迷惑をおかけしますけれど、ご理解いただきたいと思っております。

市の職員を採用しないのではなく、募集しても職種によって応募自体がないという状況になっていますので、先々をみて前倒しを含めて調整したいと思っております。もう1点、対話については、対面での対話とパソコンを使った対話、両方を使い分けながら、連絡をしていますので、ご心配いただきありがとうございます。私も以前と変わって

いないと思っています。

市民

職員採用については、前倒しを行っていかないと一般職について、国家公務員も同じようなことを考え、地方公務員、北海道職員も同じことを考えています。富良野市の職員定数が多くなるかもしれませんが、頑張っていかないと本当に人が来ないと思います。

職員対話についてはわかりましたが、私から見ると職員同士の話し合いがなかなか職場ではされていないように見えます。タブレットを使うのはわかりませんが、やっぱり対面することで人の心というのがわかりつつ、そこで仕事を覚えていくことになるのかなと思います。

市民

烏沼公園駐車場の裏にある花壇の淵にあるブロックが落ちる。また、子どももそこに上がっていることがある。以前にも市役所に伺いましたが、予算がないから、予算がつかないからと言われた。一つ30キロぐらいある石で土が半分ぐらいしかかかっていないので危ない。話は聞いていますか。

北川建設水道部長

崩れているという話は聞いています。作業をさせていただいている中でも見えています。少しずつでも手を付けていかなければいけないという認識ではありますが、手が付けられていない状況です。今シーズンがいいのか、おそらく来年がいいと思いますが、モルタルにするのがいいのかも含め外れない対応をしたいと思っております。また、花壇についても広くて、今まで管理している方も高齢化して管理が厳しいと伺っていますので、花壇の在り方も含めて、地域とお話をさせていただきたいと思っております。

市民

基本的なことでは申し訳ありませんが、固形燃料ごみは全て固形燃料にしているのですか。それどのように使っているのか。余っているならどう使っていくのかとお聞きしたい。

もう1点は、老人クラブのことで役員のなり手がいなくて解散しているところもある。行政としてどのように考えているのか。

北市長

老人クラブについて、思いのことしかお話できないかと思いますが、身近な老人クラブも会長のなり手がいなくて解散しますという話を聞きました。ただ、高齢者の方々や独居も含めて、コミュニティの場が極めて少なくなってきたり、老人クラブのありようというのは非常に大切なものになっていると思いますし、老人クラブの活動で、高齢者の方々が健康を管理していく、維持していくという役割にも繋がると思っています。仲間がいて初めて楽しい人生をおくれることもあろうかと思っておりますので、老人クラブの解散については残念だと思います。強制して行う団体でもないと思いますので、そのような答えにしかありませんが、そういうことないように行政に相談いただいた時には、その相談に真摯に応えていきたいと思っています。

石出環境課主幹

皆様が日頃から分別していただいている黄色のごみ袋をぎゅっと固めて固形燃料にしています。供給先は市外の熟を供給している会社とハイランドふらのボイラーで全量使っている状況です。

市民

現在、町内会の役員をしています。市からの文書で返信がFAXでもなっていますが、FAXがないので、返信封筒を入れていただければ助かるので考えていただけないでしょうか。

市民

私もそれを感じています。パソコンやスマホも持っている人がいますので、メールでの報告なり、あるいは、町内会への連絡事項を掲示板みたいなものでお知らせしたりすることはできないでしょうか。FAXで送る、直接持っていくではなく、インターネットで市に届ける方法も一つあるのではないかと思います。そういった改善をしてはどうかと思います。

稲葉副市長

市としては、色々な方法で受けられるようにしたいと思っておりますし、今おっしゃったようにFAXがない方もたくさんいらっしゃると思いますので、例えばそういった場合は直接取りに行くとか、お電話でも受け付けるなどありますが、具体的にどのようなものがありますか。

市民

防犯灯もありますし、地域一斉清掃、子ども会の有無、敬老の日関係もあります。FAXやメールとかも使えないので、返信封筒があればシンプルだと思います。役員の担い手もないというのがありますのでよろしくお願いします。

稲葉副市長

今、具体的なお話もいただきましたので、内部でどのような形がいいのかを検討させていただきたいと思っております。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

市民

こちらのふらのりについては市民を対象にしたサービスだと思いますが、観光客について冬のハイシーズンだとタクシーが全然取れない状態で

40分待ちとか、電話が繋がらないとか、繋がっても対応できないなどが結構あります。タクシーが利用できないことで観光客の流動を妨げて、さらなる観光の妨げになっていることを把握しているのかという質問です。

稲葉副市長

聞いていますし、タクシー会社や料飲店の方にもお互いにいい方法を考えましょうという形で、状況確認をさせていただいています。

市民

前回の説明会に参加させていただいたのですが、実際に動き出して、色々な問題が出た時に説明があるのか、聞きに伺った方がいいのか教えてください。

西野 SC 戦略室長

11月1日から新たな取り組みで、まさに実証実験の取り組みですけど、何かそこに課題や問題がありましたら、スマートシティ戦略室に問い合わせいただければと思います。

稲葉副市長

何かあれば直接スマートシティ戦略室に問い合わせいただければと思います。

また、広報10月号にも掲載していますのでこちらもご確認いただき、わからないことはスマートシティ戦略室に問い合わせいただければと思います。

他にご意見がないようですのでこの地域懇談会を閉めたいと思います。閉会にあたり北市長よりご挨拶を申し上げます。

北市長

限られた時間ではありましたが、こちら側のテーマ、あるいは情報共有ということで熱心にお聞きいただいたことに心からお礼申し上げます。

また、地域のご意見、あるいは考え方ということで、大変貴重なご意見もたくさんいただいたというふうに思っております。検討が必要なもの、そして現場確認しながら対応していくもの、様々あるかと思いますが、できる限りスピード感をもってこれら一つ一つに対応していければと思っております。

最後のAIオンデマンドの関係、タクシーの利用というところで不自由もあるということをご指摘いただきました。今スタートするためのシステムということで、提案をさせていただきました。このことについても、運行している中で何かあったらどうなるのかとお話をいただきましたが、まさにそのご意見をいただくことで、このシステムを改善し、より良いもの利便性の高いものに変えていくことも可能かと思っておりますので、引き続きご利用、そしてご理解いただいた上でご意見をいただければと思っております。

これから暮れに向かっていくわけですが、国では、物価高騰で電気など、全てにおいて値上がりし、支出が増えるということから経済対策も検討されているようです。これらが発表されるのは11月になってからかと思いますが、この政策を滞ることなく迅速に対応できるよう、12月議会の中で予算組みができるよう対応していきたいと思っております。これらについてもお気づきの点がありましたら、ご指摘いただければと思っております。

また、未来をつくろうということで、来年の予算編成もこれから始まるわけですが、人が足りない、あるいは人口が減少し子どもが少なくなっていると、様々な部分を解消していくためにも、まちとして魅力を高めていくことが大切だと思っております。シティプロモーションという新たな部署も設けさせていただいています。そういった関係についても、引き続き行政に皆様のご意見をお届けいただければありがたいと思っております。そうしたことが富良野市の将来明るい、そして住みやすい、住んでいてよかった、富良野に来てみたい

という方をつくる、そんな力にもなっていくのか
と思っています。引き続き、行政に対してご協力
ご理解いただきますようお願い申し上げ、今日の
懇談会、最後までお付き合いいただきましたこと
にお礼申し上げて、閉会の挨拶に代えさせてい
たきます。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 10月20日(金) 18:30~20:00

場所 南コミュニティセンター

参加者 18人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

夏の暑い時期を過ぎ、温度が下がってまいりまして、今晚も雨が降っている中、そして温度も下がった中ですが、お疲れのところご参集いただきましたこと、心からお礼申し上げます。

地域懇談会も4カ所目となり、それぞれの地域の中にある課題等も、それぞれの立場からご発言をいただき、今日を迎えているわけですが、一つ一つの課題をクリアしていくことが、富良野市の将来に明るい、そして幸せな、住んで良かったと言えるようなまちづくりに繋がっていくかなと思っていますので、本日の懇談会におきましてもご協力をよろしく申し上げます。

先ほどもお話ししましたが、本当に暑い夏でありました。北海道全体でも30度を超える日数が40日あったそうです。異常気象ということで片づけられているところですが、これだけの日数、そして35度を超えるようなことが続くと、様々な問題も起こしている今年の夏だったかと思います。その一つとしてはやはり子どもたちにとって、教育環境は、授業になる、ならないということより子どもたちの健康管理も対応できるのかということをお大変心配した夏でもありました。既に冷風扇、保健室に冷房室クーラーなどの設置を進めていますが、これが例年続くとすれば、やはり抜本的にきちっと対応しなければならぬということをお今検討しています。行政としても、知事、全道市長会が参加し、総務省へ暑さ対策を申し入れしています。子どもたちの教育の場は、幼稚園、保育所、学童保育センターなど様々な場所もありますし、高齢者の施設も冷房の必要性が高まっていると思います。これらを行政としても1日も早く対応していきたいと思っています。

農業も同じで、雨が降り、土が黒くなり、30度を超える日照があると土の中は40度を超えて作物が育つ環境にはなくなってしまいます。暑いということで、豊作も期待していましたが、収穫してみると病気がついていて、痛んでいる。あるいは温度が高すぎて成長が著しく阻害されているということで、今年の農業生産のトータルの時期が近づいていますが、決していい方向ではないなと思います。なんとか平年並みを確保と思っておりますが、なかなかそこまではいかないかというふうに思っています。間違いなく減少傾向にあるのが玉ねぎ、あるいはビートなどは減少傾向になるかと思っています。

また、観光においても、コロナが明けて人の動きが出てきて、一時はコロナ前の120%の入り込みがあったと報告を受けています。しかしながら、それが全て経済に繋がっているかという、なかなかそうでもないようです。その主な原因は働く人が少なくなっていて、ホテル、飲食も含めて100%の稼働をするというのは難しいそうです。したがって、人はいっぱい入ってきているけれど、70%80%ぐらいの稼働ということで、経済に良い影響を及ぼす効果には、まだまだ課題があるかと思っています。

今、何点が申し上げましたが、将来にわたって不安な材料もたくさんあるわけですが、その不安を解消するというのも一つですが、地域の皆さんが1人1人声を掛け合って、その課題に向き合っていく。そして、その課題に向き合っている姿勢と行政が力を合わせてまちづくりを進めていく。そういった中でこの大きな問題を解決する方法も生まれるかと思っています。本日のテーマゼロカーボン、情報提供ということでAIオンデマンド交通について報告させていただきますが、地域の方々と

の意見交換も含め、忌憚のないご意見をいただきますよう申し上げます、開会の挨拶に代えさせていただきます。

出席者紹介

- ・ 稲葉副市長
- ・ 関澤総務部長
- ・ 西野 SC 戦略室長
- ・ 山下市民生活部長
- ・ 柿本保健福祉部長
- ・ 川上経済部長
- ・ 北川建設水道部長
- ・ 佐藤教育部長
- ・ 小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行～稲葉副市長～

ゼロカーボンの取り組み

～石出環境課主幹 資料について説明～

市民

私の場合は朝7時までには電気をつけていますが、晩の6時まではずっとつけていません。それと後はテレビだけにして電気は完全につけていません。それとガスは止めて、ポータブルのガスにしています。それと、灯油は20Lのタンクに入れていますが、あまり使わないよう厚着をして我慢しています。

4. 地域との意見交換

市民

私は今車に乗れているので、ハイランドに1週間に3回行っています。自分1人なので、灯油、水道を節約するため風呂は焚いていません。それでハイランドに行くのですが、年を取り車に乗れなくなったらどうしたらいいかということで悩んでいます。友達を誘ってハイヤーで行くとかも考えてはいますが、どうしたらいいのでしょうか。

柿本保健福祉部長

現在、保健福祉部の取り組みとして、ご家庭にお風呂がない住宅の方や、あっても単身の高齢者でお風呂を維持するのが大変だということで、相談にのり、やむを得ない場合は、毎日ではありませんが、ハイランドまで市のバスで往復させています。そのような状況やお知り合いの方でそのような方がいましたら、保健医療課に相談いただければと思います。

市民

頼んだらすぐに回してくれますか。

柿本保健福祉部長

ルートが決まっています。停留所まで来て乗っていただいてハイランドまで行って戻ってくるという形になります。先ほど申し上げたとおり、公営住宅等でお風呂がない方、あっても単身でお風呂を洗ったり、沸かしたりができないというご事情がある方が対象になっています。まだまだ元気で家族でお風呂に入れる方々は、そのバスをご利用することができません。

市民

何点かあります。1点目は農村花嫁対策ですが、男性女性含めて教育についてです。男性に失礼ですが、男性の教育が非常に低いと思っています。学校を卒業してからの教育を徹底してやっていただきたいと考えます。

それから、富良野も人口減で2万人を切りました。この対策について今後どのようにしていこうかをお聞かせいただければと思います。

それから、富良野高校の跡地利用についてです。緑峰高校と統合になりますが、新しい学校名がどうなるのか、跡地をどうするのかをお聞かせいただきたい。

それから、普段墓地に行きますが、9線から墓地に入る道路が非常に狭いです。大型バスは当然

すれ違うことができない。道路側溝が左右にあるので難しいかと思いますが、高齢者が結構お参りに行きますので、改良いただけたらと思います。

それから、ラベンダーについては完全に中富良野に負けている。富良野もラベンダーに限らず、スキーもありますので、もう少し元気づけられるものがないかなと思います。

それから旭川との高規格道路については、今進んでいます、いつごろに完成するのか予定をお聞かせいただきたいと思います。

富良野旭川間は花人街道という有名なところ。花畑も3カ所ぐらいあって、非常に立派ないい観光地だと思います。そこに自転車専用道路があってもいいかなと思います。

それから、近頃熊の事故が本州でもありました。出没に対するの対策を。

それからこの人口減少に対して市議会議員の数をもう少し考えてもいいのではないかな。減らそうということではなく、どういうことかいいのかなというところをお聞かせいただきたいと思います。

川上経済部長

農村花嫁対策ということで、これまで広域の自治体や、農協が独自でやっていると色々あったと思います。その中で今パートナーを求める人を集めにくいという状況にもありますが、イベント等を重ねながら、なんとかマッチングするような取り組みをしてきたところです。担当者に聞くと、男性はすごく真面目で奥手、どちらかというとな性の方が積極的だというような話も聞いています。男性になんとか積極的になってもらえるよう働きかけもしているという話も聞いています。これまで農村花嫁対策は、同じようなことを市と農協で行って行きましたので、一本化して効率よくしていく方向にしたいと思います。

市民

男性は結構奥手です。これをやっぱり積極的に

させるためには、学校卒業してからの、教育、ふれあい、そういうものを設定しなければ結婚にはならないので、協力的にお願いします。

北市長

人口減少対策について、以前から移住・定住対応や、移住・定住に繋がるワーケーションとして富良野に来てテレワークで仕事ができるなど、関係人口を増やしていくことから、移住・定住につなげていきたいと動いています。それと合わせて、来てくださいだけでは、富良野に住む動機にはならないと思う。今年の4月にシティプロモーションとして富良野市にある魅力や資源の掘り起こしや磨き上げできる部署を設置しました。富良野の魅力情報を発信することで、そういうところなら行ってみたいと、こんな魅力があるまちなら住んでみようかなという動機につなげていきたい。そのためには今住んでいる人たちが住んでいた良かった、幸せを感じられるまちではないかと思えます。人口減はどこのまちも同じで引き合いだけでは解決しない。加えて、若い方々が勉強してもらえる環境、学校に魅力を持ってもらって他からも通ってもらえる環境を整えらるとご意見いただいた部分は解消できるのではないかと思います。

佐藤教育部長

新しい学校名について、現在統合準備委員会で校名アンケートを実施しています。アンケートは12月15日までとなっています。

富良野高校の跡地利用については、まだ決まっていない状況です。北海道が所有しているものですが、道教委から地元の利用について聞き取りもあるかと思えますし、市としても教育に関する利用がいいと考えています。

北川建設水道部長

9線から墓地に上がる道路のことですが、上りと帰りの道を分けて、帰りは旧道から零号に抜け

られるようにして、看板も設置しています

川上経済部長

花関係を含めた観光資源ですが、ラベンダーはワイン工場やハイランド、その他にも地域の方に協力をいただき、国道沿いの花壇整備や観光協会、建設業協会、北の峰の住民や観光課で観光客に楽しんでもらえるよう花壇を整備しています。中々花畑を増やすことは難しいですが、六花亭に季節に合わせた花を整備してもらい等働き掛けていきたいと考えています。新しい観光資源の開発ですが、ロケ地のセットと合わせて富良野市の環境の取り組みを紹介、富良野自然塾では、旅行に来た方が木を植えて、旅行で発生した二酸化炭素を削減するような新しい取り組みができてきています。他の分野との組み合わせで、新しい観光資源を作っていきたいと思います。

サイクリングの関係も観光資源の一つになっていて、数年前から富良野市だけではなく、広域でサイクリング観光を進めています。コースを設定したり、イベントを開催したり、道路にコースペイントしたりを行っていますが、道路の整備等でペイントが剥がれるなどの課題もあります。しかし、富良野美瑛は非常にサイクリングには最適で、海外の旅行会社にも、海外から来てサイクリングをしてくださいと案内しています。ただ、独自のサイクリングコースとなると道路や予算との兼ね合いもありますし、確かにサイクリング専用レーンがあれば安全面なども確保されるかもしれませんが、現実的な課題はあると思いますので、既存のもので進めたいと思います。

小笠原企画振興課長

高規格道路の関係について、ご承知のとおり現在富良野道路のトンネルを含む部分が開通し、その先の富良野北道路が工事を行っています。これが中富良野まで行き、その先の中富良野から上富良野部分が、3月になって計画段階評価になった

と連絡がありました。そちらの工事も近年着手になるのかなと目途が立ったところです。合わせて、東神楽の方についても、昨年全線舗装化され、両方から工事を進めている状況です。ただ、全線開通というところについては正直目途が立っていません。時期については明確化されていないというのが実情です。

先日は、美瑛町で道づくりフォーラムが開催され、関係自治体が集まり、国や道の関係者、国会議員も招待し、早期の全線開通に向けて意識の醸成を図ってきました。これからも国等に中央要望も含めてしっかりと働きかけをしたいと考えています。

川上経済部長

農産物の鳥獣被害が非常に広まっています。熊だけではなく、鹿など、色々な被害があり、今広がっているのがアライグマです。また、熊の出没も増えていますが、農村地域は警察署や担当課でパトロールを行っており、必要に応じてハンターの見回りも依頼しています。市街地での目撃情報があった場合は、まず警察か市に連絡があります。そこから警察と市担当者が現地について詳細情報を整理し、地域や学校等、ホームページ、LINEなどで周知がされます。同時に警察、農林課で夜間のパトロールや翌日早朝パトロールをしています。

稲葉副市長

市会議員の関係については、私たちの立場ではお答えできませんので、答えは控えさせていただきます。

市民

ごみステーションについて、3～4年前に少し幅を縮めて奥行きを深くしたら、設計図を出せと言われた。結局は出さなくても許可は下りたのですが、今回作るのに市推奨以外のサイズで作ったら面倒くさいのかなと思っています。推奨サイズ

のもう一つ大きいサイズがあれば作りやすいのかなと思います。補助金について、28,000円ですが、小さいものでも10万円になります。大きいものをつくると28,000円の補助金では作れないなど考えるので検討いただければと思います。

石出環境課主幹

推奨サイズは3つありますが、それ以外の大きさでも問題はありませし、設計図も必要ありません。補助金の関係についてもそのような声がありますので検討しています。

稲葉副市長

補助金の関係については要望ということで承りました。

市民

福祉バスの関係でお伺いします。老人クラブで今の福祉バスを利用しています。日帰り利用は十分できていますが、1泊2日の旅行に対しては、2年に1度に制限されたようです。老人クラブでも楽しみにしている人が多いので2年に1回しかなければがっかりしてしまう。何とか1年に1度福祉バスを利用できるようにしていただけないかという要望です。

柿本保健福祉部長

福祉バス事業について、予算の関係と各団体に公平に利用していただくために、申し訳ありませんがこのようなルールにさせていただいています。貴重なご意見をいただきましたので、どのような形であれば少しでもサービス向上になるのかを考えさせていただきたいと思います。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

市民

この前の説明会でも聞いたのですが、30分前に頼んでおいたが、年だから歩くのが遅かったり、冬なので滑ったりした場合で間に合わなかったら、完全にバスは行ってしまうのですよね。そして他で頼んだ方がいたら、30分とか40分遅れるかもしれないと聞きました。時間までに行きたいとなれば大変になるのではないかと思います。

西野 SC 戦略室長

地域説明会では時間に間に合わなかった場合にどうなるのかという質問がありました。ふらのりはその時間の先も予約が埋まっている場合もありますので、申し訳ありませんが、その予約時間に間に合わなかった場合は、この車両は行ってしまいますので、説明会等では5分前には乗降場所で待っていただくようお願いしています。

次に、到着時間も電話でご案内します。今のAIの計算では乗り合いが発生したとしても10分から15分程の遅れではなかろうかという計算がされています。これは少し実績を積み重ねながら、その誤差を少しでも縮めるような工夫もしていきたいと思います。

次に、車が1台しかありませんので、希望する時間に既に予約が入っていればその時間に予約はできません。希望の時間から2時間先までの中で空いている時間をご連絡します。その中でもご案内できる時間がない場合は、「条件に合う車両は用意できませんでした」とご案内します。いずれにしても私たちも初めての取り組みですし、どれだけの方が、どれだけの地域で、どれだけニーズがあるのかまだ見えない部分です。こういった一つの実証実験という形で行いますので、その中で様々なデータをとりながら、効率的で運行の良いサービス提供を考えていきたいと思います。

市民

私は健康づくりで毎日ふらっとを利用させてい

ただいています。高齢者の健康づくりというので、利用料金を少しでも安くしていただければという希望です。

稲葉副市長

これについては、ご要望として承ります。

この他、懇談会全体を通して皆さんからありますか。

市民

今日、回覧されましたが、グループホームが閉鎖するけど、説明会は行いませんと紙1枚で経過についてきました。それか8月にも他のところも施設を閉鎖しました。この先どんどんこういう高齢者が増えていくのに、働く人がいないから閉鎖するというミスマッチが発生しています。この解決策をなにか考えていますか。私は高齢者をもっと利用したらいいのかなと思っています。元気な高齢者がたくさんいます。高齢者をフルタイムで働かすのは非常にきついです。1時間とか2時間とかシフトを組んで、上手に元気でいてもらうと小遣いもかせいで、自分の健康のために生きてもらう。そういう方式でうまくやっているところもあります。富良野みたいに顔の見える町だとわりとやり易いのではないかと検討してもいいのではと思っています。

あと、空き家がかなり増えてきました。町内も5件ぐらいあり、放置しているとゆくゆくは老朽化して危険だからと公金を使ってやらなければいけなくなると思います。それより早くその情報があれば、リノベーションするなり、積極的に住んでくれる人を探すなり、そういった方法をとった方がいいのかなと思います。

あと、成年後見だと、死後後見などがますます必要になってくる。富良野市でも合同墓を作ってくれたことはすごくありがたいと思います。死後後見がしっかりしていないと生前後見と死んだ後の後見で例えば財産の処分等を整理する等、京都

などでは市民後見人がやっていたりします。本来は司法書士、弁護士がやりますが、富良野の場合はそれだけでは生活ができないということで、どうしても親族後見や市民後見人をお願いするしかないかと思っています。そんな仕組みを作っていくことがすごく大事かと思っています。

高齢者が増えてくると医療だとか、予防だとか健幸都市をつくるためには、その辺に力をいれていただきたい。市民としても手を取り合ってやっていきたいと思っていますが、なかなか一朝一夕には進んでいかない。今回のふらのりで、一つ光明が見えたのかと。とにかくやってみないと何もわからないので、やってみて不都合な部分を改善していこうというのがスマートシティ戦略室の考えではないかと思っています。

この町に住んでいる人が一番大事だと思います。市長のお話でもそれが一番大事、だから健幸都市をつくろう、そのためには色々な政策があると思います。市の職員も色々アイデアを出して頑張っていると思います。市民の余っているパワーも利用したらいいのではないかと思います。

北市長

グループホームを含めて高齢者施設の閉鎖の関係から少しお話をさせていただきます。8月に閉鎖した施設については道の認可を受けていますので、市には閉鎖が決まりましたということでした。その後、高齢者施設の全体の要望ということで市役所に来ていただいた、様々な要望もいただきましたが、閉鎖する前に相談いただければ、人の確保など何等かの対応ができたのではないかと思います。今は人が足りなくて施設が閉まるということです。もう一つの方は人が足りないことを、施設を合わせて働く人が働きやすくなるということで対応を図るということで、閉所になったということです。

人を確保するための対策として、民間の方々からお話を伺っています。そして行政として人材確

保をどういった形で進めていけるのか、どういう形が効果あるのかを検討しています。それを合わせて、民間の方々に行政の考え方を報告させていただき、最終的に来年の事業で展開できるようなものをつくっていきたくと進めています。

空き家対策については空き家の把握はしています。もう置いておくのには危険が伴うものについては、行政も解体ができようになっていますのでそういった方向で進めています。ご指摘いただいたように、活用できる場所をどうやって活用していくのか、生かしていくのかというところはまだまだこれから段階です。ただ、民間事業者から、空き家をリノベーションすることで活用を図っている事業所があり、富良野市でも事業展開できないかと、ご提案いただいていますので、ご指摘をいただいたように空き家対策を、移住・定住の関係、あるいは子どもたちを富良野で学ぶような環境を作っていく。その場合には住まいも大切になってこようかと思っておりますので、活用についてもこの後検討を進めなければいけないと思っていますので、お気づきの点がございましたらご提言いただければと思います。

それと高齢者の活用ということでご意見をいただきました。人材確保では様々な形を検討しています。その中には、一つの方法としてまだまだ頑張れる高齢者の方々に役割や出番を作ること大切なことになると思います。その中で検討させていただければと思います。

後見制度については社会福祉協議会と連携しながら進めています。後見がなければ生活できない、施設の中でも対応ができないという方々もおられますので、後見制度を充実させていく方向で検討させていただきたいと思っております。現況については担当より説明します。

柿本保健福祉部長

成年後見制度は、法人後見として社会福祉協議会の方が非常にご尽力いただいています。年々頼

りになる制度ということで活用される方が増えてきています。これを社協が全部を見ることが将来できなくなってくるかもしれないということで、社協のスタッフを拡充するなど視野に入れて検討しています。市民後見となると現状は周知や研修会など行っても、壁が高いのが実情です。もう少し時間はかかるかと今は考えています。大きな町ですら担い手がいないので、地道に進めていかなければ市民後見を伸ばしていくのは非常に難しいという考えです。

市民後見とは別に、社協では安心預かり事業とか最後まで安心事業という事業も取り組んでいます。後見までではなく、亡くなった後自分の身辺整理をどうしたらいいのだろうという相談には制度としてのれるような状況になっています。

市民

今から 10 年ぐらい前に富良野圏域で日常生活自立支援事業、市民後見人と一緒にやりましょうという話があった。富良野以外の社協は OK でしたが、富良野だけ 6 万円の年会費払えないと言って断られた。当時は道とかからも担当者がきて広域でできたらモデル事業として非常にいいので富良野でやりましょうとなっていた。それを今頃になって一生懸命社協がやっているなんて冗談ではないと私は言いたいです。だから、成年後見だって当時からやってくれていたらもっと進んでいたと思う。死後後見もしっかりとできたと思います。私のまわりにもたくさん後見が必要な方がいましたけど、みんな悩んでいます。

これからますますそういう情報は必要だと思えますし、子育て支援や福祉関係で特別支援学校の誘致の話もありました。それからフリースクールも欲しいという市民グループの人たちもいます。それらを含めてもう少し人を大事にしてほしいなと思っています。

あと民生委員も各地区にいますが、足りていないのではないですか。民生委員の補助委員もいて

いいと思いますし、いないと情報収集だって届かないと思います。そういう話をしたら民生委員は十分足りている。でも新聞ではなり手がいないとなっていました。富良野はそんなに充足しているのかなと思いますし、高齢者に何か困ったことないかと回っているのかと知りたい。

柿本保健福祉部長

社会福祉協議会へのご意見に関しては私からの回答は控えさせていただきますが、ご意見を賜りましたので、社協にはこういう意見が市民からあった旨をお伝えしたいと思います。

後見制度に関しまして、市の事業として成年後見制度を行っており、社会福祉協議会に委託して運営しているところです。

民生委員に関しては、全国的になり手がいないという状況で定員を満たさないところが相当あります。昨年 11 月に改選され、富良野は地域のコミュニティがしっかりしていますので、おかげさまで定員は満たされたところです。定員の 55 人で足りるのか足りないのかという点については、民生委員の方々にはご自身の役割を十分発揮していただいております。

稲葉副市長

こういう現状だということで、色々なご意見も含めてご要望も含めて持ち帰りたいというふうに思います。もう一度全体を通して皆様からございますか。なければ閉会にあたり市長からご挨拶申し上げます。

北市長

それでは長時間にわたって、こちら側のテーマ、あるいは情報提供を届けさせていただいたことにお礼申し上げます。また、意見交換ということで大変貴重なご意見をいただきました。これらについて対応できるものについては、早速対応していきたいと思いますし、ご意見ということで伺った

部分につきましても検討を加えながら、実施できるもの、あるいは少し時間がかかる。色々であろうかと思いますが、今日頂いたものを生かしていけるような体制で行政運営に努めてまいりたいと思っています。

10 月も中過ぎて、いよいよ雪の時期をむかえようかというところです。高齢者の施設で色々な不安のお話も伺いましたが、暮れに向けて不安も多いのではないかと考えております。物価の高騰と合わせて生活が大変になっているというのが現状かと思えます。国では、総理大臣が国の経済対策ということをつつようです。どういものかわかりませんが、予算化していくのは富良野も 12 月議会の中で予算確保をしなければいけないということになりますので、遅れることなく 12 月議会には提案できるような体制で、国の情報を捉えていきたいと思っています。お気づきの点があればご意見をいただければと思います。

不安な部分は色々であろうかと思いますが、不安を一人で抱えるのではなく、地域の中でコミュニティの中で発散をしていただく、相談をしていただく。そして地域の中で対応できないものは、行政にご相談いただければ、行政がそれに対応する。という形の中で、住み良い富良野をつくっていきたいと思っています。この後、引き続き行政に対するご支援、ご理解をお願いしたいと思います。最後になりましたが、長時間お付き合いいただいたことに心からお礼申し上げ、閉会の挨拶にさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 10月27日(金) 18:30~20:30

場所 山部福祉センター

参加者 27人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

今日は山部地域の地域懇談会です。雨が降り足元が悪い中、お集りいただきましたことにお礼申し上げます。山部地域の皆様におかれましては、日頃から地域の振興発展に向けた取り組みや経済に資する活動、様々なところで一生懸命に活動いただいています。そのことが、富良野市全体の振興あるいは発展にも繋がっているかと思えます。そうした意味では、この場をお借りして、皆さんの日頃のご尽力に感謝申し上げますと思っています。

11月がもう目前という時期ではありますが、今日は日中照っていると、ずいぶん雪虫が出ています。量の多さにびっくりするところです。やはり夏の温度の高かったということが、あの小さな虫にも影響を与えているのかなと思います。今年の暑さの中では、子どもたちの勉強する環境がどうなのかという意見もいただいています。今までは、異常気象ということで、1年だけで済むのではないかという思いもあったわけですが、今年はこの高温で夏を過ごすのが当たり前になってきているのかもしれない。そういった中では、今の子どもたちの教育環境ということでお話をしましたが、寿光園など高齢者が生活する施設も含めて、この暑さで健康を害することがないような生活環境を確保していくことも、行政に求められる大きな役割になってきたかなと思っています。

このように気候が変わり、あるいは時代が変わり、また技術が進歩するという中では、様々な変革に挑戦していかなければいけない時代を迎えているかと思っています。山部地域の中でも、土地改良事業は、この後展開するための協議が進め

られていますが、これも一つかと思っています。さらに、今日のテーマでゼロカーボンの取り組みに加えて、AI オンデマンド交通の運行も含めて、足を確保していくことが町の大きな課題になっています。AIを活用するというのが、新しい技術、そして利便性を高めていく取り組みになるかと思っています。

今日の地域懇談会の中では、意見交換の時間もありますので、山部には高齢者の施設、学校、郷土館もあるということで、様々な課題があろうかと思えます。山部地域から要望をいただく機会が後日予定していますが、今日は大勢の皆さんから日頃思っていること、感じていることをお伝えいただければと思います。短い時間ですが、有意義な時間になりますようお願い申し上げます。開会のご挨拶に代えさせていただきます。

出席者紹介

- ・稲葉副市長
- ・近内教育長
- ・関澤総務部長
- ・西野 SC 戦略室長
- ・山下市民生活部長
- ・柿本保健福祉部長
- ・川上経済部長
- ・北川建設水道部長
- ・佐藤教育部長
- ・小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行~稲葉副市長~

ゼロカーボンの取り組み

~石出環境課主幹 資料について説明~
市民

太陽光発電もいいのですが、そればかりが増え

ると景観的にあまり良い状態とは思わないです。中富良野町の国道沿いに太陽光パネルの下に羊が飼われているところがあります。あのような農業とゼロカーボンの取り組み等、融合する形は素晴らしいと思います。農家も高齢化が見られているので、あのような施設であれば、農地について従業員を雇わず管理できるかと思います。そういった活動をやってみてはどうかと思います。

石出環境課主幹

ありがとうございます。計画に少し記載していますが、観光というものが大事な資源となっていますので、景観に配慮して太陽光を導入しようというのがあります。基本的には農地とかではなく、市街地で設置できるところにまずはということで、建物に設置しようというのが一つです。今、ご意見いただいた農業と並行して、その下で営農できるものがあれば、そういったものを合わせて行うことを今後検討していきたいと思います。

市民

反対意見もあったかもしれませんが、庁舎を1年早くなっただけで、少しでも安くできたということで、その決断にありがとうございます。

ソーラーの関係で、ソーラーとは違う形で安価にできるものがあります。自動車でも自動車ショーでは電気で走るものばかりになってきています。電気パネルを廃線の後を利用するなども含めて検討していただければと思います。

稲葉副市長

ご意見として受けたまわります。

市民

以前、リサイクルソングをつくりました。これは、富良野がごみのリサイクル率が1位ということで私が作ったわけですが、富良野はそういうPRが不足していると思います。このゼロカーボンの

歌をぜひ作りたいと思います。富良野からそう発信をしていくといいと思いました。このゼロカーボンについて、説明を聞いて色々ある程度わかりましたので、応援として、近いうちに作ってみたいと思います。

稲葉副市長

今、富良野市のリサイクル率が90%をキープできているのは、市民の皆さんのおかげだということの宣伝が足りていないと理解しています。色々なプロモーションで使わせていただきたいと思いますので、ご意見として賜りました。その後のゼロカーボンの歌も期待して待っていますのでよろしくをお願いします。

市民

ゼロカーボンと言う前に、今何が必要かと言ったら、この地球上の汚れている空気を綺麗にすることだと思う。パネルを作るにも資材が必要、その前に空いているところに木を植えて、空気を掃除するというような市の考えをもってお金を使ってもらえたらいい。他の地域だとそのような取り組みをしているところもある。環境整備の方が先だと思う。電気電気と言っているがそれ以前だと思う。補助金を使って木を植えるようにして空気を綺麗にしましょう。

市民

森林の整備というのが大事だと思っている。やっぱり演習林も高齢林になっている部分も結構あるようです。その辺は古い木より新しい木を植えることで、吸収が増えてくると思うので森林整備は大事になってくる。山部あたりは、木がたくさんあり高齢林が多いので伐採しないといけないのではというのが結構あると思う。古い木をいつまでも残しても寿命があるので、やっぱり循環することも考えて、古い木を切って新しい木を植えるということも、今もやっていると思いますが、

これからもやっていただきたいと思います。

北市長

ゼロカーボンの関係でお話しますと、炭素を出さない生活環境を作っていくことと合わせて、今ご指摘いただいたように、木や植物が炭素を吸収することと合わせて、ゼロカーボンという生活環境にしていきたいということですから、ゼロカーボンの取り組みの中にも木が吸収して空気を綺麗にしていくということの目的は入っていますので、ご理解いただきたいと思います。

合わせて、森林組合の活動も含めてお話ありましたが、多くは高齢を迎えている山林があります。この整備として、伐採の後きっちりと植林をしていくことが求められているかなと思います。しかし、それに中々手がついていないというのも実体かなと思います。ただ、国は森林環境譲与税とか、森林の再生に予算をつけていますので、それを活用できるような制度も富良野市として持っていますので、それを活用して山を守っていく、そして空気を綺麗にしていく努力を引き続き務めていきたいと思っていますのでご理解いただければと思います。

4. 地域との意見交換

市民

来年の春には JR がなくなることはもう決定しています。これは前々からそういうことで議論されていましたが、もう止むを得ない形です。そして来年の3月いっぱい、Aコープが閉鎖します。これが相当年寄りには利用しています。その他にも診療所が11月2日で今まで配達してくれていた薬が配達できないということになっています。これも深刻な問題で、皆さんが心配していることは、診療所もなくなるのではという心配までしています。AI オンデマンド交通のことですが、富良野市街地で何十カ所もバス運行ということで停まることをやりますが、富良野は自分の家を出たらお店

がいくらでもある、病院もある、薬局も、スーパーもある。ところがこの郡部田舎の方はないので今後この足をどうしたらいいかと考えていますか。

北市長

それぞれ大きな課題ということで、3点ほどご指摘をいただいたと思います。

1点目のAコープの閉鎖の関係ですけれども、これについて行政で閉鎖しないで続けていただくような意見を出すのは中々難しいと思っています。閉鎖されることで、対応が求められる部分については地域の方々と協議を重ねながら作っていかねばと思っています。どのようなものが作れるかというものは今即答できるものはありませんけれども、地域の中でご協議をいただき、必要とされるもの、どんなところが必要とされるのか、どこまで行政が応援できるのかというところで、この後お話し合いを進めていければと思いますし、山部振興会としても捉えていると思いますので、役員の方々ともご相談させていただければと思います。

診療所の関係ですが、詳細な部分については担当からお話しますが、薬を配達していただいている人がいなくなるということで、対応できなくなるという話を伺っています。ただ薬の配達ができなくなるから山部診療所がなくなるということには繋がりませんので、それはご安心いただければと思います。それを担っている先生がどうしても見つからないとなった時は、今心配されていることも出てくるかもしれませんが、それ以外のことで診療所がなくなるということはないのでご安心いただければと思います。

足の確保についてですが、JRは来年の3月でなくなります。ただ、それに合わせて路線バス、あるいは地域を走るバスというものを乗務員等も含めて対応しています。JRがなくなったことで不便をおかけするということは何とか解消できるかなと思っています。ただ、将来的にそのままの形でいいのかどうかというのは、また地域の方々と相談

しながら決めていければと思っています。この後に情報提供ということで、オンデマンド交通も検討していますが、これもご指摘いただいた社会的に立場の弱い方々の足を確保し、どうやって確保していくのかということが始まりですから、これに加えて、地域でどういう交通体系を持つのが適当か、望まれるのかというようなところで話し合いを進めていきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

柿本保健福祉部長

調剤関係の経過から説明させていただきます。皆さんご承知のとおりドロップ調剤薬局さんにおいては博友会さんの頃から、特別なご配慮で薬の無料配達と集金をしていただいていたいました。このたび、10月6日に、協会病院からドロップ調剤薬局さんの薬剤師が退職することにより診療所の薬の配達も10月末でできなくなると伺いました。10月10日にドロップ調剤薬局担当者に状況を確認した結果、11月8日から薬剤師の退職に伴い、配達ができなくなる。それまで診療所に来ない患者様に対しては、ドロップ調剤薬局さんから直接個別に連絡をすると連絡をいただきました。私どもの対応としては、10月11日に市内調剤薬局12カ所に山部診療所へ薬の配達について打診しました。また、診療所を通じて患者さんへの現在の状況について周知を図り、概ね通院されている方々にはお知らせを終えています。現在、数カ所の薬局において宅配便による当日配送、集金は可能との回答を得ています。患者の皆様には送料等のご負担をお願いすることになると思われませんが、何卒ご理解いただきたいと思います。私どもにとりましても急なことで、期間があまりありませんが、協会病院と連携して11月8日以降の体制を整えて、患者の皆様にご迷惑が生じないよう取り組んでまいります。

市民

薬のことですが、送料を負担していただくということですが、どの程度の料金を想定しなさいいけないのでしょうか。

柿本保健福祉部長

2～3カ所の調剤薬局で対応できると聞いておりますが、送料が600円程度。それと代金支払いの方法によって異なりますが、代金引換になりますと手数料が400円程度かかります。薬代の他に送料と合わせて1,000円ぐらいのご負担になるかと思っております。振り込みになりますと、金融機関の振込手数料が別途かかるようになります。

市民

仕方がないのかもしれませんが、結構な負担増になるということで、薬代より配達料の方が高くなるような場合もでてきて、年金で生活している方々が相当厳しい状況に置かれると考えられます。なんとか手当ができるようであれば手当をしていただけるような方策を考えていただければと思います。

稲葉副市長

何ができるのかということも含めて、色々な面で検討させていただければと思います。

市民

私も高齢者になってきていますので、先のことを考えた中で、やはり交通の便とか病院とかを考えると山部にいて不便だからどうしようかと不安になってきます。そういう不安を取り除いていただきたいなと思います。来年はJRもなくなる、農協もなくなり買い物もできなくなる、病院に行くのも大変になる。今は車があるので交通手段があるが、いずれは自分も車を運転することができなくなり、免許を返納しなければならなくなる。そうすると交通手段が一番大事になってきて、自分

のを守るためにはそういうものがなければ、この地域に住んでいられないということもあると思います。その辺を色々と考えて、今後山部をどうしていったらいいか、住民が住みやすい、人口も減らない、若い人も入れるようなまちを作っていただければと思います。

それと、山部中学校が統合になり、中学生が路線バスで通っています。当時どのような話し合いがあったのかわかりませんが、来年はJRが廃止になると、路線バスを一般客や高校生も利用することになります。今でさえ中学生はストレスを感じながらバス通学しているのがもっと感じるようになってと思います。そういうストレスをなくすためにはスクールバスなどを用意していただければと思います。今は15~20人がいると思います。市街地の生徒は学校が終わるとすぐ帰れるが、山部の子は早く終わっても学校で待ってなければいけない。親に電話して迎えに来てもらうとそういう負担が増えています。中学生はまでは、終わったらすぐに帰れるといった、同じような対応をしてほしいと思います。その辺を再度考えてスクールバスと検討していただきたいと思います。

北市長

調剤薬局のことから地域の心配ごとを解消してほしいということになってきたのかと思います。学校の関係については教育委員会の方から説明をさせていただきます。

調剤について、これは制度として全市的に使われているものです。病院の後、調剤薬局に行っている時間がない場合に、多少費用は掛かりますが、送ってもらった方がいいという方が利用しています。こういった宅配の制度を使っている方は市内にも何件もあると思っています。そういったことからすると、山部だから、診療所だからというところで宅配に関して支援ということにはならないかなと思っています。公平性を確保しながら努めていきたいと思っています。加えていえば、

生活のしにくさというのはどこにでもあるのかなと思います。そういった不便さをなくしていくことが、住んでいて良かった。あるいは富良野に住んでみたいと思われるようなまちをつくっていきたいと考えていますし、努めさせていただきます。ただ、それを実現していくには、住んでいる方々の協力もなければ難しいかなと思います。行政だけでできることではないと考えておりますので、山部の抱えている課題を住んでいる皆さんとお話し合いをさせていただき、どういった方法がいいのか、その方法を作っていくには、行政は何ができて、住民の皆様にはどんな協力をしていただかなければならないのかという話し合いを進めていければと思います。

近内教育長

中学校の統合について、経過はご存知のことかと思いますが、一つは子どもたちが少なくなってきたことによって、先生方が少なくなると、子どもたち同士の学びが損なわれつつあること。もう一つは専門的な先生の確保ができなくなることが発端だったわけです。もう一つは部活動の問題、これは可能な限り子どもたちのそういった機会を提供していきたいということです。そういったところが、統合の主な要因だったわけですが、そういった中で当然通学についてスクールバスがいいのか、路線バスがいいのかご意見をいただき、路線バスを使っていたいただいているところです。ただ、どんどん状況が変わっている中で、実態を踏まえながら、どうしたらいいのかを継続して、子どもたちからも意見を聞きながらやっていきたいと思っています。もう一つは、バスの待ち時間について、学校には居場所を確保するように話をしています。上手く利用して勉強なり、何ができるのかも含めて、継続して調査をしながら、子どもたちに負担がかからないように努めていきたいと思っています。

市民

当初、合併になるのは、子どもたちが競い合い、大勢の中で勉強をすることは大変いいことですが、どこの地区でもスクールバスは走らせていたはずです。山部の場合は保護者が路線バスに乗って通わせるというふうに決めたのですか。

稲葉副市長

経過として、誰が言い出したのかはわかりませんが、路線バスだと朝行くときも問題ないし、帰りも何便かあるので部活をする子もしない子も対応できるということで、路線バスで通うことに異論はなかったです。

市民

自分は他の地域ではスクールバスで学校まで行っているのに、山部はなぜスクールバスがなく、バス停で待っていたり、雨が降っていたら親と車で待っていたり、不思議に思っていました。

それともう一つ、小学校のスクールバスで道路1本隔てたら乗れませんというのはなぜですか。バスに余裕があるから乗せてあげたらいいと思います。

佐藤教育部長

学校のスクールバスの運行については、2月から3月にかけて翌年度の運行経路というのを学校や父母と話をして決めています。具体的にどこの地域のことなのかわかりませんので詳細を確認しながら進めさせていただきたいと思います。

市民

うちに90歳になる母親がいます。病院についても1回に半日で帰れる距離にあって大変ありがたいと思っています。北見の病院の話を知りました。病院経営はどれも大変な状況になっていると想像します。おそらく、富良野圏域も同じような状態であろうかと思っています。協会病院のような中

核病院がある状況を、ぜひ地域で考えて維持していただければと思っています。

北市長

センター病院の関係については、大変ありがたいお話をいただいたと思います。今、中々医師の数が揃わないという中で、待ち時間が長いなど色々な意見もいただいています。ただ、現況としては、医師確保のため制度をつくっていますし、病院に対しての支援も行っています。最近では、院長とも相談して、より医師を確保していくということ。総合内科医の医師を確保していくことで、今センター病院が担っている2次救急、あるいは入院なども充実していけるということです。現況よりも病院機能を上げていくためにも、医師の確保が必要ということで、旭川医大と連携しながら、医師の確保ができる体制を行政としても作っていきたくと思っています。いずれにせよ、地域の中核になる病院だと思っています。病院がないところに人は住めないわけですから、よりセンター病院の機能を高めていくために努めていきたいと思っています。

市民

旧山部中学校の跡地に企業誘致されたと思いますが、現在の進捗状況はどうなっていますか。

川上経済部長

山部中学校跡地のウイスキー蒸留所建設についてですが、東京の民間会社がウイスキー蒸留所の建設を今検討しているという状況になっています。民間企業のことですので、あまり細かいことは言えませんが、進捗状況だけ申し上げますと、ポーリング調査が終わって、建設のタイミングを見計らっているという状況になっています。何度か市長と社長が意見交換を行っていますし、経済団体の方を中心に市民ツアーで厚岸に視察に行っています。そのような状況ですが、今資材の高騰など

色々な課題があり、蒸留所の建設を見計らっている状況です。課題もいくつかありますので、それをクリアできるよう今準備をしているというふうにお聞きしています。また、貯蔵庫については、蒸留所より先に建設することを前向きに検討しているとお聞きしています。

北市長

行政として、企業誘致というのは大きな課題です。この山部地域を選定させていただいたのも、地域の経済に貢献できるのではないかと考えました。今説明があったとおり、物価高騰などの動きがあって、蒸留所の建設まで一気にいけないというのが現状かと思います。しかしながら、貯蔵庫を建設したいと作業が進んでいるようですので、少し時間はかかっていますが、皆さんが期待しているものに応えていけるかなと思っています。

市民

企業誘致されることは幸いですが、そこに建物が建つことで、山部の町から見える芦別岳が見えなくなるような建物は建設されないよう願っています。

稲葉副市長

それほど高い建物ではないですので大丈夫だと思います。

市民

余市のような観光地になるのか。

北市長

将来的には製品の展示するところや工場見学ができるようにしたいと考えているようです。厚岸の施設がそのようになっています。海のウイスキーと山のウイスキーということで富良野を選定いただき、原材料も地元産の麦を使うようなことも考えているようです。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

稲葉副市長

これから発展していく可能性がありますので、まずはスタートさせてみようということになります。実際に運行してみて波及できるかもしれません。まずはやってみようというスタンスですのでご理解をいただきたいと思います。

市民

将来的には、東山や山部などもこれを利用して、乗り換えなしで行けるようになるのか。

稲葉副市長

それを含めて検証させていただきたいと思います。ただ、路線バスは通っていますので、東山からこれを使って富良野までというのは考えていません。あくまで路線バスに乗り継ぐようなパターンであればと考えています。コミュニティカーを使って路線バスに乗って富良野まで行くというのもあると思いますので、どういう形がいいのか色々試行錯誤させていただきたいと思います。

市民

予約が 30 分前でも OK というのは素晴らしいこと。これが 1 時間前だと時間が空きすぎると思う。

市民

以前、寿光園に路線バスを回すことができないのかと質問を受けたことがあります。寿光園から病院に行く人は多いのでそういったことも視野に入れていただきたいと思います。

北市長

路線バスで繋ぐのか、コミュニティバスを創出して繋ぐのか色々な方法が考えられると思っています。今後地域の方々と協議をさせていただきながら決めていきたい、進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

市民

コミュニティカーについてちょっとお聞きしたいのですが、これから老人とか、足が悪くてバス停まで行けないとか、買い物に行けないとかがあるので、コミュニティカーで山部から乗り合いで富良野まで行くとかは考えていませんか。

稲葉副市長

皆さんで乗り合わせて富良野に行くということですが、幹となる路線バスにどのように枝として繋がっていくということを考えていますので、今のところはまっすぐ富良野までということは考えていません。バスと共存しながらどのように幹と枝を繋ぎ合わせて乗りやすい状況にするのかを考えさせていただきたいと思います。

市民

そうすると足の悪くてバス停まで行けない人はタクシーで移動するということになるのか。

稲葉副市長

外出支援のタクシーもありますのでそちらを利用することになると思います。

市民

年金生活者はつらいですね。

稲葉副市長

外出支援のタクシー券なども含めて制度がありますので、補助できる分については補助を行いますが、基本的にふらのりもそうですが、ドア to ド

アはタクシーを利用することになります。タクシー券については介護保険法で該当する方には助成しています。

市民

山部の場合はタクシー券が2,000円だと思うが、町中から診療所までは2,000円かからないと思います。券はおつりがでないので、分割できるような券を発行できないでしょうか。

柿本保健福祉部長

JR やバスなど公共交通機関を足が悪いなどで利用できない方を対象にしています。山部を2,000円に設定しているのは、それぞれ距離とタクシーと料金を合わせた単価としています。山部の診療所までは山部地域のコミュニティカーを利用いただいていますので、外出支援のチケットは利用されているケースはないと思います。

市民

今、山部にコミュニティカーがあると聞いたがそういうものがあるということはちょっとわからない。コミュニティカーという名称では理解していないので、どういうものなのか説明してください。

山下市民生活部長

診療所への通院利用のためのコミュニティカーが走っています。利用している方も大勢いますし、広報もしているところです。車は富良野タクシーを利用しています。山部支所で申し込みをさせていただいて、利用方法は利用する日の前日に予約をしていただくこととなります。1回100円となっております。以前から山部地区のコミュニティカーとして運行しており、東山地区のコミュニティカーとは運行形態が違います。

市民

コミュニティカーとしての認識がなかったもので、介護タクシーや福祉タクシーという認識でした。現在、山部地区総合振興協議会で山部地区のコミュニティカーが必要だということで、皆さんからご意見いただく中で、喫緊の課題として話している部分があります。山部地区の議員の方にもお手伝いいただきながら、どういう方法がいいのかどうすれば運行できるのかを含めて、今調査研究をしているところです。我々としては、スクールバスの代わりに路線バスを使っている、スーパーがなくなり買い物難民がでるのではという心配もあり、山部から富良野に行ける方法がないのかと思っている。今のコミュニティカーでは山部から出ることができないということで、自分たちももう少し勉強しないとどのような方法がいいのかもわからないのが実情です。行政でもオンデマンドが増えている状況だと思いますが、その中でも何が駄目で何がいいのか、どういう方法をとれば皆さんの希望に沿うことができるのかを、もう少しお互いに共通の課題として、これから研究していきたいと思います。市の方としてもどのような形ならお手伝いできますなどの指針があれば、自分たちとしても調査研究する指針になるかと思えます。

市民

コミュニティカーは人を運ぶものですが、全国的には荷物などバスを使って運ぶなどが始まっていますよね。色々な関係機関の許可をとらなければいけないと思いますが、コミュニティカーで薬の配達なども可能ではないかと思うので、色々検討してみてください。

稲葉副市長

先ほど会長からあった指針というものは、今はありません。皆さんと協議をさせていただきながらつめていくしかありません。他地域の事例はお

話をさせていただきます。色々な選択肢を探りながらやっていかなければいけないと思っていますので、ご意見ということで承りました。

市民

南町9町内の元教員住宅等が5件ありますが、いなくなって何年か経ちます。それで環境衛生的には、市から年2回草刈に来ていただいています。売りに出すと広報にでていましたが、一括でしか売らないとなっていました。住宅も古いし、山部地域などで売れないと思いますし、何年かかかるかなと思います。

関澤総務部長

競争入札という形で2回お知らせをしました。直近2回目の競争入札で応じていただけの方がいました。今、売買契約の手続きをしているところです。ですのでご理解いただきたいと思えます。

市民

JR 山部駅を壊すようなことを言っているのですが、どういうことで壊すとなっているのか。

小笠原企画振興課長

JR 山部駅の今後についてですが、今のところ私も駅舎を壊すということは聞いていません。かつ、JR との意見交換の中で、駅の今後どうするのか、考えを聞きましたが、JR としてもまだ取り壊す予定はないそうです。屋根が落ちたり、傷みが進んで危険な状況となってくれば取り壊すこともあるとは思いますが、今のところは廃線後もすぐに壊すということは一切考えてないという答えでした。

稲葉副市長

もう一度全体を通して皆様からございますか。なければ閉会にあたり市長からご挨拶申し上げます。

北市長

長時間にわたって、熱心にこちらの情報提供も含め、テーマについて説明をお聞きいただきましたこと心からお礼申し上げます。また、地域の課題ということで、多岐にわたるご意見もいただきました。かなり難しい課題もありますが、多くは地域の方の足をどうやって確保するのかということが中心になったのかと思います。これはどこの地域も大きな課題になっておりますし、市街地から始まりましたが、そういった意味ではその足を確保するところの第1弾として、AI オンデマンド交通ということです。地域の皆さんと、またお話をさせていただきながら、皆さんが思っているコミュニティカーの運行に繋げていければということです。

いずれにせよ、今回の地域懇談会は未来をつくろうおとということであります。時代が変わる、あるいは気候環境が変わる、そして技術が発展していくということでもありますから、好きとか嫌いとかではなく、世の中が変わっていくのが必然になっている部分もあります。その必然の部分がいってみれば AI に代表されるデジタルということもあるのかもしれません。そういう時代になっていく、世の中が動いていくということを理解いただき、それを取り組むということも、生活を変えていくということが必要かなと思います。

電話はダイヤル式でしたが、それがいつの間にか持って歩ける電話になって、今はスマホです。まさにコンピューターを持って歩いているようなものになっています。このように必要とされるものが、どんどん出てくればそれに合わせて世の中、社会が変わっていくということでもありますから、そういった感覚も持ちながら、振興発展させていただければと思っています。前段申し上げたとおり、皆さんと協力しながら、地域を作っていくというのが行政の役割でもありますので、地域の意向、あるいはお考えというものを行政に届けてい

ただければありがたいなと思っています。

最後になりますが、長時間ご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。閉会のご挨拶に代えさせていただきます。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 10月30日(月) 18:30~20:00

場所 麓郷集落センター

参加者 32人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

夜になると少し寒くもなってきましたけど、そのような中本当に大勢の皆様にご出席をいただきましたことにお礼申し上げます。また、地域の振興、行政の推進ということで平素からご協力をいただいていることにも、重ねてお礼申し上げます。

今日6カ所目ということでありますが、どの地域もコロナ明けて、新たな環境の中で、それぞれの生活、地域の振興を図っていかねばならないという新たな目標目的ができてきているということもあるのかもしれませんが、本当にどの会場も大勢の皆さんにお集りいただいています。

振り返ってみますと、今年の夏は大変暑い夏がありました。今日も3時ごろ太陽が出ていると、雪虫が大量発生しています。こんなに虫がでたかなと思うわけですが、やはりこれも天候のせいで、大量発生に繋がっているのかなと思います。また、天候のせいといえ、鹿や熊などいわゆる鳥獣害の被害発生も顕著になった年になっているかなと思います。

そうした中で今回の懇談会のテーマでもある「ゼロカーボンの取り組み」ということで皆さんにご案内させていただきたいと思います。よく富良野市だけで、富良野市の取り組みで地球環境を守れるのかと疑問になるところもあるかもしれませんが、小さいことから始めないと、今の地球環境を守っていくことは難しい、至難なことになっていますし、地域の住みやすさなども維持するためにも、このゼロカーボンの取り組みは大事なことだと思っています。

また、皆さんが常日頃から地域のため、行政の推進ということで色々なお考えとして思いがあらうかと思っています。そうしてものも意見交換として

お聞かせいただければと思います。ぜひ忌憚のない色々な思いを語っていただければありがたいと思います。

加えて情報提供ということで、AI オンデマンド交通の関係について、11月1日からスタートになりますが、この取り組みについても説明をさせていただきます。いわゆるデジタルの利活用で住民の方々の利便性を図っていくということも、この取り組みの一環となっていますし、こうしたデジタルを活用した取り組みの中で、地域の経済も高めていくことができればと思っています。この地域の中でも関係することができてよいかと思っていますが、そういったものを一つ一つ提案いただき、そして実現していくことが、地域の発展、富良野市の住みやすさ、観光として行ってみたい町、そんなものに繋がってよいかかなと思っていますので、限られた時間ですが、ご協力をいただきますことをお願い申し上げます。開会の挨拶に代えさせていただきます。

出席者紹介

- ・ 稲葉副市長
- ・ 近内教育長
- ・ 関澤総務部長
- ・ 西野 SC 戦略室長
- ・ 山下市民生活部長
- ・ 柿本保健福祉部長
- ・ 川上経済部長
- ・ 中島都市施設課長
- ・ 佐藤教育部長
- ・ 小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行～稲葉副市長～

ゼロカーボンの取り組み

～山下市民生活部長 資料について説明～

市民

今、食べ残しということでゼロカーボンに繋がるとありましたが、学校給食はどれぐらいのこっで帰ってきますか？

佐藤教育部長

学校給食の残渣がどれぐらい出るのかについては、手元に資料がなくてお答えできなくて申し訳ありません。

市民

相当前ですが、芦別市の給食はすごくおいしくて残渣がないと聞いた。でも富良野はあまりおいしくない。やっぱり作る人は栄養ばかり考えていると思うが、残渣を少なくするようなことを考えてはどうか。学校給食が特に多いからそういう小さなことから改善していければ効果が発揮できるのではと思います。

近内教育長

他の学校給食センターの状況も良いところは取り入れるよう、毎年沿線市町村と一緒に回っています。調べて改善できることはしていきたいと思っています。一つだけお話をさせていただきますと、子どもたちの食生活が昔と違って出来合いのものを食べる傾向が強くなってきています。例えばコンビニ弁当とかは高カロリーですが、バランスがよろしくないと言われていました。そういった意味では生涯にわたって健康であるためには、バランスの良いものを学校給食で提供させていただくという中で、家庭でもご理解いただき、朝ご飯を食べることや、家族そろって食べるそういった形の中で規則正しい食生活ができるようなことも合わせて行っているという考えでいますのでご理解よろしくをお願いします。

市民

すごく素敵な取り組みだと思いますし、私もこれから色々できることをやって少しでも結果を出していければと思いますが、環境保全のことばかりに目を向けてしまうと暮らしが窮屈になってしまうのかなっていう部分も見えてくると思います。例えば、今年は猛暑で全道的に学校施設等の冷房問題があって、それを設置すると電気代がかかるとなると、このゼロカーボンの取り組みが衰退していると思います。ただそれも命を守ることが最優先だと思いますのでバランスを保ってこういう活動をしていければと思います。なので、学校の冷房施設などは今後どうなっていくのかをお聞きしたいです。

佐藤教育部長

今年の暑い夏が今年で終わるのか来年以降続くのかということところはちょっとわかりませんが、この暑さがまたくることは子どもたちの健康がすごく心配になります。今検討しているのは、環境の心配もありましたが、子どもたちの健康、命を守っていくことが大事ですので、各学校には保健室には冷房が入っていますが、それ以外にも子どもたちが集まれるような部屋を涼しくできるようにしたいと考えています。また、音がうるさいということもありますが、冷風扇などと合わせながら工夫をしていきたいと考えています。

市民

富良野もすごく観光に力をいれていて北の峰にはホテルとかがすごくいっぱいできていますよね。そういうところにはエアコンの室外機が外から見えます。それを見た時に、一般市民にゼロカーボンの取り組みを進めていますが、ホテルの電気関係というのは宿泊した人たちが自分で調整するのか、もう決まっていてそれ以上温度を調整できないような仕組みになっているのかちょっと疑問があります。また、ごみの問題にしても、宿泊客には

どの程度の分別をしてもらって処分しているのかなと思いました。

山下市民生活部長

今回は、暮らしの中で CO2 排出量を減らしていくということでお話させていただいて、市民 1 人 1 人ができる削減ということでご協力をいただきたいとお話をしました。計画では、当然、家庭だけではなく、産業部門、業務部門、運輸部門ということでそれぞれ CO2 排出量を把握しています。それぞれがどれくらい減らさなければいけないのかということで目標数値を定めています。これに基づいて色々なところにもゼロカーボンの取り組みを協力のお願いを進めていきたいと思っています。4 部門を合わせると CO2 の排出量が一番多いのが家庭部門で約 28%ということ、次に多いのが運輸部門で 25%と数字がでていますが、業務部門、産業部門として事業所やホテルにも、この削減目標をお願いしていくことになっていきますので、計画を進めていく中でも色々な業種にゼロカーボンの取り組みについてご理解いただき、ご協力できることをお願いしたいと思っています。

稲葉副市長

エアコンは各部屋で逐次調整しながらということもありますし、ごみの分別についても皆さんにご協力いただきながらお願いしているところです。

市民

先ほどのスライドの中で、例えばお湯を沸かすときに強火じゃなく中火でとありましたが、例えば強火で 5 分で沸かすのと、中火で 10 分で沸かすのだったらどっちが本当に CO2 排出するのかということと、薪ストーブ・ペレットストーブの話がでしたが、結局木を切らないと薪とかペレットって作れなくて、木を切ることで CO2 を吸収してくれる植物が減っちゃうわけじゃないですか。その辺のバランスがどうなのかわからないで

す。

山下市民生活部長

まず、炎の大きさですが、一般的に出ているものとして水 1 L を沸騰させるという条件が付くと強火ではなく、中火の方が LP ガスに限って言えば若干の節約になりますということに掲載しています。他にも 100 個ほど取り組み事例を紹介していますが、それぞれ一般的な取り組み事例ということになっています。色々な取り組みを紹介し、わかりやすく生活に密着した行動が脱炭素に繋がるということに掲載しています。実際 LP ガスではなく違う炎だとどうなのか、水が 1 L じゃない場合はどうなのかなどそういったものは細かく検証しているわけではありません。ただ、この 100 項目は生活をしていく上で、こういうことが繋がっていくということを理解していただければと掲載しています。個別の取り組みを見ていただいて、これは本当に繋がるのかというものがあれば、ご意見をいただければ 2030 年に向けて色々調べていきたいと思っています。あと、薪ストーブやペレットストーブについてですが、山を切り開いて燃料にするのではなく、使った木や間伐材を用いて、木を必ず戻していくことを前提にしていますのでご理解いただければと思います。

4. 意見交換

市民

布礼別小学校が今年 3 月で閉校になりましたが、今雨漏りなどもしていると思います。今後どのように処理するのかということ。

10 年以上前に教員住宅を 3 戸売却しましたが、今は誰も住んでいません。住むという条件で売却をしたと市が言ったはずですが、そこは誰も住んでいなくて荒れ放題になりつつあります。

あと、布礼別から扇山の道路、7～8 年前に雨が降って川が氾濫しました。その時の富良野市からの報告は毎年 400 万円ずつかけて 10 年でそこ

を開通しますという約束の元で行われました。後から噂でもう手は付けられないと聞いた。一度言ったことはやっていただかなければと思う。その時の場当たりの発言は違うと思います。やはり4,000万円です。本当にできるのか私も不思議に思ったけれど、もうしないと聞いて愕然としました。

それとこれからの鹿や熊対策についてもちょっと聞きたいです。もうちょっと富良野市として猟友会などハンターを育成するとか、職員でそのような人を採用するとか、もう少し取り組んでもらいたい。10何年前に鹿柵ができたが、その内側で鹿などは繁殖しています。もう少し市でそのような人を採用することも必要だと思います。

教員住宅も誰も利用していない住宅が多数あります。そのような住宅をどのように管理していくのかも聞きしたい。

佐藤教育部長

布礼別小学校の屋根の雨漏りについては、担当も中の片付けなど行っていますが、把握していませんでした。この後確認させていただきます。

教員住宅のことですが、一度市から手が離れてしまっているところですが、状況を確認して購入した方もしくは管理している方に連絡を取りたいと思います。

教員住宅の管理について、使えるものは使えるようにしたいと思えますし、利用ができないものについては現場を確認して対応します。

中島都市施設課長

大雨によって布礼別川添線が甚大な被害を受けました。復旧に向けて色々協議を行っていますが、詳しい開通についての記録について改めて調べさせていただきたいと思えます。現状は、布礼別川と道路が隣接していますので、道路復旧と同時に布礼別川の護岸と河川の復旧も必要となり、現在復旧が難しいということで市道認定から外させていただいています。この間、北海道とも色々

と情報交換を行い、復旧に向けて手法がないか協議をしているところです。先週、北海道と布礼別川添線についても、過去から生活道路として利用している道路なので、復旧方法がないかという意見交換をしたところです。残念ながら、今はどのように復旧していくのか見いだせていないところですが、今後も引き続き開通できる見込みがあるかも含めて協議を進めていきます。過去の経過については調べて、確認させていただきたいと思えます。

市民

布礼別川添線の話については、当時の担当者が変われば、資料がないとか色々言い訳をするようだけど、私たちははっきりと聞いている。そういう言った言わないという話はしたくないし、当時私も本当にできるのかと思ったが、市がやると思ったのでやると思った。

それから、教員住宅について当時売る条件にそこに住むという条件があったにも関わらず、住んだのは何カ月だけだった。条件違反だから売って手が離れたとかではなく、対応してもらいたい。地域としては住めるような状況じゃないので、早く壊して更地にしてもらいたい。

川上経済部長

鳥獣害の関係について非常に被害が拡大している状況です。問い合わせ等も増えており、担当が対応に追われている状況です。ハンターの育成については、銃を所持するための支援と資格を取得するための支援を制度として設けて、ハンターの確保に努めています。9月27日から10月2日に市内4カ所ですべて鳥獣害の意見交換を行いました。その時には個体数を減らすしか方法はないのか、柵についても老朽化していますので、入れ替えができないのか、あるいはもっとハンターへ支援ができないのかなど様々な意見がでています。いただいた意見を精査して、次年度以降に対応をしてい

きたいと考えています。加えて、沿線5市町村の首長で北海道知事と北海道議会へ要望として、様々な支援の拡充等をお願いしてきています。また、自衛隊などの協力もできないかと要請をしている状況です。

市長

確定したものが無いので私が聞いている範囲になります。布礼別川添線の関係について、災害が起きた時にあそこには一部農地もあり、そこに通えなくなるという話がありました。最初の復旧に向けた検討というものがされましたが、やはり金額が高額になることと、そこを通る頻度がそれほどないということから、農作業などでどうしてもそこに行かなければいけない用事があった時は、車が通れるようにしますという話は聞いた経過があります。下の農地の部分について、地先の方の承諾を得てからになります。布礼別川の氾濫があった時の緩衝帯という形で農地を使いたいということで、行政も地権者のかたにも了解を得てそういう形になっているのが現状かなと思います。担当からも先ほどお答えしましたが、これに関わってもう一度調べさせていただき、後日内容をお伝えさせていただきたいと思いますのでご理解をお願いします。

教員住宅については、今の状況をお聞きしました。ただ地権者がいる以上は勝手に解体等をするわけにはいきませんので、状況等も地権者の方々と協議させていただいて解決策を探っていきたいと思いますのでご理解いただければと思います。

市民

鳥獣被害の関係ですが、私も自衛をしています。以前は、ハンターに鹿がいるという自衛でもといわれたことが始めた動機ですが、市に言えばいい、農協に言えばいいではなく、自覚をもって自分で対応しようとする人に手厚く補助する方法を考えてほしいと思います。人に頼めばいいという

風潮はちょっと違うような気がしますし、自覚をもってやっている人には手厚くしてほしいなと思います。

川上経済部長

やはり資格と取得して地域にしっかりと根付いていただきたいという思いもあります。猟友会と一緒にやって意見交換も行いながらやっていますので引き続きよろしくをお願いします。また、占冠村では地域おこし協力隊制度を利用してハンターを1人雇用しています。富良野市でもできないかを検討しています。

市民

防犯灯についてお伺いします。麓郷地区では45灯の防犯灯があって去年は40万円の支出がありました。防犯灯・街路灯は道路の設備の一つと考えられますので、道路管理者が管理をする。市道についている防犯灯は富良野市が設置をして管理をするということにならないでしょうか。

中島都市施設課長

道路の構造基準があり、道路照明というものは、交差点照明、まちなかの連続照明が照明として位置づけられていますので、防犯灯を道路施設としては管理していません。

市民

防犯灯を全部街路灯として市が管理していただくわけにはいかないですか。

中島都市施設課長

道路構造物として管理はできません。防犯灯と道路照明では役割が違いますし、道路構造物として防犯灯は入らないということをご理解をお願いします。

市民

ただ、言葉の違いにしかすぎないように私は思います。それからゼロカーボンの取り組みとしてLED化の補助率を上げることはできないでしょうか。

山下市民生活部長

防犯灯につきましては、ゼロカーボンの取り組みや維持管理の部分も含めて、4年ほど前にLED化に対して補助率を上げています。この間色々な資機材が値上がりをしていますので、状況も踏まえて引き続き内部で協議を行います。状況も確認しながら検討したいと思います。

市民

集落センター、保育所など市の施設前にある防犯灯も地域が払っています。市の施設の前ぐらい市が負担していただくわけにはいかないでしょうか。

市民

住んでいる人間が少なくなってきたことと、電気代が上がってきていること、また地域で色々な組織があり維持していくことも大変になっている。色々と助成してもらっていますが、例えばLED化は市が面倒をみるなどしていただくと私たちも維持していけるかなと思っています。この維持費が上がってくると、防犯灯はいらぬのではないかななどにもなるので、そういう話も踏まえて市で色々と考えていただきたいと思います。

稲葉副市長

地域から色々な要望をいただいています。意見も取り入れながら、すぐに切り替えることはできませんが、お互い考えなら何ができるのかということも含めて検討させていただきたいと思います。皆さんの防犯灯の維持について、地域によってはLED化すると明るくなるので灯数を減らしたなど

もありますので、皆さんにも情報提供していきたいと思います。

市民

麓郷街道の桜並木についてお願いですが、麓郷振興会が東大演習林の協力を得て、昭和54年から植えたものです。現在は、麓郷振興会として毎年草刈りやごみ拾いを行っています。大きくなって手入れが必要になってきます。去年のような強風で枝が折れ、そのままにしておくとう病気になる枯れてしまうということで、手入れが必要になります。手入れには業者が入らなければいけないが、麓郷振興会としてはお金がないのでできないとなると、だんだん腐る一方です。桜並木も富良野市の観光資源の一つとして考えていただいて、手入れの予算をお願いしたいと思います。

川上経済部長

麓郷街道の桜並木について、昭和54年から麓郷振興会と東大演習林が力を合わせて植えた桜並木があって、その後もずっと植樹を続けていただいて、ある時から北の国からの出演者や倉本先生も関わりながら、増やしてきた状況。そして麓郷振興会が草刈り等をしながら守ってきたという経緯があるとお聞きしています。去年の湿雪の関係で、これまで600本ぐらい植えてきていますが、今残っているのが169本。その湿雪で69本が折れ、傷んでいる状況をお聞きしました。それで麓郷振興会、観光協会、倉本財団、東大演習林、市でどのように管理をしていくのかを話をしました。まず、今年の分については東大演習林の予算で整備をするという話になっています。課題は来年度以降どうしていくのかを協議している状況です。

市民

神社だよりに広告が出ていますが、富良野市、教育委員会、富良野市議会が広告を出しています。公金を宗教団体にだしていることにならないので

しょうか。

稲葉副市長

名刺広告のことだと思いますが、何か判例があるかということも含めて一度持ち帰って調べたいと思います。

市民

東部地域の人口減少に対して、現在具体的な取り組み等があったら教えていただきたいと思います。昨今労働不足が非常に顕著になっており、中々人でも見つからないという問題があります。このまま高齢過疎化が進んでいく状況にどのように歯止めをかけていくのか、市で取り組んでいる対策について教えていただければと思います。

関澤総務部長

東部地域の人口減少対策ということですが、東部地域に絞った人口減少対策というのは、現在行っておりません。富良野市全体について第6次総合計画を令和4年度から取り組みを進めています。この中に、富良野市全体の人口が減少傾向にあります。10年計画の中でこの減少幅をなるべく少なくしたいということで、様々な政策をすすめていくという内容になっています。今、市が進めている部分では、関係人口として観光で訪れる方よりもっと富良野に愛着を持ってもらい、定期的に訪れていただける方、そういった方に富良野にもっと関心を持ってもらって、将来的に住んでもらえるような取り組みを進めています。合わせて労働力の人材確保については、農業、観光、運輸など様々な部門で人手不足という声をいただいています。市として事業者の方や関係団体からのご意見も伺いながら、どのような手を打つことができるのか検討を進めています。具体的な取り組みも含めて検討をしていますが、その中では、どうしたら富良野にきてもらえることができるのだろうかも含まれていますので、東部地域だけの対策

ではなく、富良野市全体としてどうやって働き手を確保していくのか、住んでもらえる地域になれるのかを検討している状況です。

市民

ゼロカーボンの中にバイオマス発電等の計画があるのか教えてください。

山下市民生活部長

先ほどのゼロカーボンについては、市民の方が取り組めることを中心に紹介させていただきました。ロードマップでは、再エネの検討ということでは、現在取り組んでいる太陽光や薪・ペレットストーブもあります。バイオマス、水力発電など様々な再エネの可能性も今後検討していくとしていますが、具体的にどのように進めていくとまでは至っていませんが、再エネの推進ということでバイオマスもメニューには入っています。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

稲葉副市長

ふらのりについては、広報 10 月号でも紹介していますし、不明な点がございましたら、スマートシティ戦略室にお問い合わせいただきたいと思います。もう一度全体を通して皆様からご意見ですか。なければ閉会にあたり市長からご挨拶申し上げます。

北市長

限られた時間ではありましたが、情報提供あるいはテーマ等について熱心にお聴き取りをいただきましたことに、お礼を申し上げます。また、地域の課題、想いについてもご意見をいただきましたが、色々な課題があるというふうに感じさせていただきました。これらにつつま

しては、状況や内容などを確認させていただき、皆さんにお伝えできればと思います。

AI オンデマンド交通については、ちょっと離れたところではありますが、利用の仕方がありますし、また今日で全てを理解していただけるということでもないと思います。さらにこのままずっと続けていくということにもならないと思います。遠隔地の方々の要望、そして利用される方の工夫をお聞かせいただき、この AI オンデマンド交通「ふらのり」を成長させていければと思っています。懇談会はこれで終了となりますが、お気づきの点があれば遠慮なさらず、行政の方にお届けいただければと思っています。

この他にも健幸ポイント、デジタルに関わるものなど様々な取り組みもありますし、ゼロカーボンなどこれからの暮らしの魅力づくり、住んでいる方々の快適さ、そして観光で訪れる方々がまた来てみたいと思っていただけるような、まちに育っていくための一つの方策であろうかと思っています。これらについてもお気づきの点があればお知らせをいただければありがたいと思っています。

行政全般、中々ご理解をさせていただくとはならないかもしれませんが、開会にもお話をした、地域の方々、行政の推進にもご協力いただいておりますし、地域の振興にもご尽力いただいております。行政とここに住む皆さんと協力、連携しながら地域を作っていく、まちを作っていくということが、皆さんの満足のできるまちに作り上げていく方法の一つであると確認しています。引き続き、ご理解ご協力をお願いしたいと思います。今日は大変お疲れの中、限られた時間にご出席をいただき、ご協力いただきましたことに心からお礼申し上げます。閉会の挨拶にさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 11月8日(水) 18:30~20:00

場所 布部会館

参加者 8人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

今日は布部会館で近隣の皆さんにお集りいただきました。朝晩めっきり寒くなってきましたけど、足元の悪い中、またお疲れのところおいでをいただいたことにお礼申し上げたいと思います。

夏の暑さがなんだったのかというような時期になってきましたけれど、その暑さも含めて1年間生活する中で、様々な課題、心配ごとが生まれている状況かなと思います。

富良野市は農業と観光を基幹産業としてまちづくりを進めさせていただいていますが、そのうち観光については、入り込みもコロナも明け、人の動きが活発になってきたことも含めて、5月の連休段階でコロナ前の120%ぐらいまで回復してきたということです。しかしながら、働き手が不足しているのはどの職種も同じで、観光あるいは観光関連の飲食業は人が足りないということで、稼働率が70~80%と聞いています。また、飲食店も同じで人が足りないことから、100%受け入れるに至っていないようです。結果として人の動きは出てきていますが、経済としては回復するまでには至っていないかなと思っています。

また、農業も夏の暑さでお米も豊作じゃないかと聞いていましたが、結果も暑すぎて一等米の比率が低いと聞いています。また、玉ねぎも雨が降った後に気温が35度になるものですから、病気の発生も随分あったようで、収量的には減収ということのようです。こういった気候に左右される部分で言えば、鹿や熊の出没も山に餌がないということから、民家のそばまで出てきているのが実態です。

人が足りないということで、高齢者、福祉施設が閉所や統合などを行っている動きから、施設の

運営はどうかという心配の声もあります。加えて、ウクライナの関係から、資材が高騰している、物価があがる、生活に関わる心配ごとも多く出てきています。今の経済対策で、国が検討を進めていますが、市としても年内に対応できるように考えています。

そうした心配ごとが地域も色々出てこようかと思っています。地域の意見交換ということで、今申し上げた心配ごとだけではなく、色々あると思いますので、皆さんの思いを聞かせていただければと思っています。

今回はテーマ、情報提供についてご報告させていただきますが、どれも富良野市の将来にとっても大事で、まちの魅力を高めていく、重要な課題になっていますので、十分にお聞きいただき、疑問のところは質問いただければと思っています。ぜひ限られた時間ですが、有意義な時間となりますようお願い申し上げます、開会にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。

出席者紹介

- ・稲葉副市長
- ・関澤総務部長
- ・西野 SC 戦略室長
- ・山下市民生活部長
- ・柿本保健福祉部長
- ・川上経済部長
- ・中島都市施設課長
- ・佐藤教育部長
- ・小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行~稲葉副市長~

ゼロカーボンの取り組み

~石出環境課主幹 資料について説明~

4. 意見交換

市民

ハザードマップに災害時の対応について書いてあります。災害は何が起こるかわからないです。以前は山火事や水害などがあった。災害になったら会館が避難所になると思うが、会館に段ボールの簡易ベッドを設置してはどうか。

せっかくいい文化会館ができた。私はカラオケが好きで、2月の老人の芸能発表に申し込んだ際にテーブルを持ってきてと言われた。せっかくの施設なのにカラオケの器材がない。そういうこともやらなければ参加者が少なくなってしまうのではないか。そうイベントをやる時は用意してはどうだろうか。

関澤総務部長

ハザードマップは今年全世帯に配布させていただきました。水害の時、地震の時など災害が起きた時に市民の皆さんに事前に心掛けていただきたいこと、また準備していただきたいことも含めて掲載しています。そういった備えは災害の被害を少なくすることにもつながると思いますので、ぜひよろしく願います。それぞれ避難施設を市で指定しています。簡易ベットが必要ではないかとお話をいただきました。災害が起きた時に、必要なものに関しては、段ボールベットも含めて、計画的に購入して備蓄しています。それぞれの施設に備え付けるところまではいきませんが、災害が起きて必要になった時は、必要なところに運んで対応できる体制をつくっています。

山下市民生活部長

先日の市民総合文化祭でも歌やダンスにはテーブルやCDを持って来ていただいているのが実態です。富良野でも以前よりカラオケを楽しまれ、それが生きがいになり健康増進にも繋がっています。文化会館にはカラオケ器材は備えていませんが、

コロナが明けて歌う人が増えてくると思いますので、もっと気軽に使えるように、どのような方法がいいのか考えてみたいと思います。

市民

昨年の地域懇談会でも要望させていただきましたが、根室線廃止後にバスの本数は増えますが、ぜひ布部市街地の中を通してほしいとお願いした。今時点でどのようになっているのか詳しく教えてください。

小笠原企画振興課長

JR 根室線の富良野新得間が廃止になり、代替バスの運行に関して、前回の説明会では、国道ルートでまずは運行開始をして、市街地により近いバス路線を持っていくにあたっては信号設置をした上で検討していきたいと返事をさせていただきました。その後地域懇談会で皆さんからのご要望を受け、バス事業者と交渉を行い、麓郷入り口から道道を通って、布部の交差点までバスが来て国道の方に右折して出ていくルート運行を計画するに至っています。既にこのルートでバス事業者から運輸局に申請をしましたので、許可を待っている段階です。厳密には確定ではありませんが、その運行をする前提にいるという認識をいただければと思います。なお、これから冬にJRがダイヤ改正を予定していますので、代替バスについても接続の関係で若干の調整があります。皆さんにお知らせするのは、年が明けてはっきりしてから、時刻表などでご案内したいと思っています。

市民

停留所について場所は決まっているのか。

小笠原企画振興課長

今のところ予定としては、右折した先の適切な場所ということで、バス会社の方で安全性、前後

に交差点から一定の距離があるところなども含めて、相応しい場所を選定して、道路管理者へ申請をする予定になっています。場所としては、交差点を右折して、踏切の手前を前提に手続きを進めています。

市民

決まった時はもう一度確認のつもりで私たちに連絡してほしい。

小笠原企画振興課長

承知しました。

市民

料金についてはどのようになりますか。

小笠原企画振興課長

料金については、運輸局の許可が出ていないので私からご案内する段階ではありませんが、見込みとしては、基本的に変わらないと思っています。

市民

今年、布部の仲通り舗装いただきありがとうございます。まだ残っているので引き続きよろしくをお願いします。来年、布部小中学校が閉校になるので、その後の管理について建物をどう使うのか。来年、消防団の演習で使う予定なのですが、水道やトイレなどはどうなりますか。

佐藤教育部長

布部小中学校は、来年3月閉校後の利用については、今のところ未定で決まっていることはありません。ただ、周辺管理は行っていきたいと思えます。水の関係について、閉校後は電気を止めることで考えていますが、その後不便になるようなことがあれば困りますので、ご相談させていただきたいと思えます。

稲葉副市長

来年9月にある消防の連合演習の会場が布部小中学校のグラウンドでやるということですか？閉校後も布部で行うのか、布部でできるよう何かを用意して行うのかということ消防署に確認したいと思えます。場合によっては水道がないから水槽車を出すこともあり得ると思えます。

市民

緊急時医療情報カードについてお聞きしますが、今年の春に私の町内会でこの取り組みをして、私も含めて高齢者が増えてきていますので、ぜひと思いましたが、残念ながらあまり期待できるような感じにはならなかった。市の窓口から申請書をいただきましたが、富良野市全体で対象者のうち登録者の割合はどれぐらいになりますか。

柿本保健福祉部長

緊急時医療情報カードについて、登録者数の正確な数字はここで答えすることができませんが、民生委員の方々を通じて紹介させていただき、高齢者の方が病気や事故にあった場合に、ご家族の連絡先や既往症などの情報を掲載しています。今質問いただいたように、本人のご理解がないと中々広がっていかないところです。私どもとしてこの事業が、本人やご家族のためになるという説明をして、ご理解いただき、1人でも多く広めていきたいと考えています。

市民

あり方は十分理解できますが、もう少し市全体として、これから高齢者が増えてきているわけですから、もっと積極的にPRする方法をとっていただかないと、まるっきり知らない人もたくさんいますので、そのような取り組みも考えていただきたいと思えます。

市民

布部小中学校が閉校になった場合、ここの会館で敬老会などを行う時に、学校から国旗や市旗などを借りてきました。それをいただけないかなと思います。

佐藤教育部長

今、地域の皆さんが会館で使われるものがあると言いましたので後程教えていただければと思います。また、閉校後の備品について、今年も布礼別小学校で行いましたが、まずは他の学校で使うものはないか確認をします。その後、市の他の部署で使うものがないかを確認します。最後に市民譲渡会を設けて学校の中を見ていただき、持っているものは持っていていただきます。布部小中学校も同様に使えるものは他で使ってもらおう予定です。

市民

今、地域活動でちょっと困ったなというのが、個人情報に関係が厳格だということ。こないだ敬老会では長寿番付がなくて寂しいと声がありました。情報を出すことでいろんな弊害があるのでやめたと聞きましたが、楽しみにしているお年寄りもいるし、地域としてはどこにどんな年寄りがいるのかわからなくなっちゃう時代です。自助、共助、公助というのが、共助が非常にやりづらくなってきたと思います。

関澤総務部長

個人情報の取り扱いに関しては、国が色々な取り決めをしています。そのような中で、災害などがあった場合は、独居のお年寄りや障がいがあったり不自由な方などのリストは準備しています。そういったリストを元に対応する準備はできていますが、長者番付が作りにくい、町内会の役員名簿も作って配りにくいというのが、今の仕組みになっています。そういった中では日常の人との繋

がりを引き続き作っていただく努力をしていただくことが、現状できることかと思えます。

市民

山手の方にそれほど多いわけではないが、不法投棄があるらしいです。そういう場合にどうすればいいですか。

山下市民生活部長

すぐに確認しますので、後程場所の確認をさせていただきます。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

市民

将来的には布部などの郊外での検討はしていますか。

西野 SC 戦略室長

こちらは道路運送法の許可をとり、実証運行として行っています。それは今年3月に地域公共交通計画を策定し、それに基づき人口密集地域におけるモビリティのあり方を検討するという一つのとして実証運行を行っています。そうした中で様々なデータが取れてくると思います。ただ、布部地域になると、路線バスが運行していますので、路線バスとオンデマンドの新たなモビリティとの関係がどうなのかということを検討しながら考えていかなければいけません。今はそういう段階で、まずは富良野市街地を運行して本当に市民の足として定着するのか等を、1年以上かけてデータを取りながら実証運行をしているところです。

稲葉副市長

これらの話は広報 10 月号にも掲載しています

し、わからないことがございましたら、スマートシティ戦略室に電話いただければお答えできますので、よろしく申し上げます。それでは閉会にあたり市長からご挨拶申し上げます。

北市長

短時間ではありましたがご協力いただきましたことに、心から感謝申し上げます。ゼロカーボン、AI オンデマンド交通の関係について説明させていただきましたが、今日の話聞いて十分にわかったということにはならないと思います。懇談会は今日で終わりますが、この後も引き続き、何か疑問なところや改善した方がいいのではないかとすることがあれば、市役所に届けていただければありがたいと思います。

地域の要望で様々な意見をいただきましたが、皆さんが気にされているのは地域のコミュニティのことかなと思いました。会館の利用のあり方、災害があった時にどうするのか、カラオケの話もありました。そして個人情報関係については、悪用する人がいるので管理をしなければいけないということになってきました。その犯罪を防止するというのも、地域の方々が普段から心配事などを共有していくことで、お互いを守っていくことにもなるのかと思いますし、防災でもいざという時に個人情報の懸念される部分は行政も対応しますが、引き続き地域の中でコミュニティを深めていただくことも必要かなと思います。ぜひそういった部分もご理解いただき、地域の振興発展にご尽力いただければありがたいと思います。最後にまちをつくっていくのは皆さんからのご意見をいただきながらつくっていくこととなります。引き続き、行政に対してご協力ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。最後になりますが、皆さんが元気に過ごされることが1番だと思います。11月も残り少なくなり、12月になれば新しい年を迎えることになると思います。ぜひ、健康で、一つでも多く自分たちの幸せを感じられるよ

うな年末になるようご祈念をさせていただいて、閉会のご挨拶に代えさせていただきます。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 11月9日(木) 18:30~20:30

場所 鳥沼会館

参加者 14人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

市内9カ所に分けて地域懇談会を開催させていただいていますが、今日は全体の8カ所目です。11月に入りめっきり寒くなってきましたけど、お疲れのところご出席いただいたことにお礼申し上げます。

行政の動きについてですが、昨年からウクライナ侵攻と世界情勢が安定しない中で、物価が上がり大変な生活状況になってきているかと思っています。そうした中で、年明けから国の経済対策含めて、国のお金と行政の力を合わせて、経済対策を春から行ってきました。農業に関連することといえば、肥料が海外から調達できないので、肥料の値段の高騰、そして肥料の不足ということから、国や北海道、そして市も上積みして、肥料購入に対する支援を春に行いました。加えて有機質肥料の支援ということで独自に加算しました。これの意味合いは世界情勢が安定しないことで、肥料が入ってこないのでは、それを待つのではなく、この状態が当たり前になるのだとしたら、肥料を国内で輸入に頼らないで国内で賄えるという動きに繋がればということで、有機質系の肥料に対する支援をさせていただきました。こういった趣旨が伝わっているかは別にしても、対応としては間違いなくシフトしていかなければいけないと思いますので、お気づきの点があればご意見を出していただきたいと思っています。

今、申し上げたように世界情勢が変わることに加えて、日本国内でもコロナの影響で生活環境が変わり、生活に対する考え方が変わってきていると思います。そういった一つひとつの時代の変化を捉えて対応していく。少子化や人口減少は間違いなく急速に起きているのが現状ですので、様々

な不安なことが出てきていると思います。それらに一つ一つ対応していくためにも皆さんからのご意見、行政の支援、そうした自助、共助、公助などの動きがこの後求められていくと思います。

代表的なところでは、農業や他の産業も担い手、働き手が不足しています。農業関係では、海外から労働力を求めて対応しているようですし、次年度に向け、100人ほど確保したと聞いています。他の産業も雇用がなければ経済が成り立たないので、春から行政がその雇用確保に対してどのような対応がとれるのか、どういう支援が必要なのかという検討をしています。民間の事業者の方々と意見交換を行っています。そうして意見を集約しながら、次年度に向け体制を組んでいる最中です。人が足りないということ言えば、高齢者施設が閉所、働き手が不足して統合という動きが出ています。我々がお世話になる時にどこへ行けばいいのかという心配もあると思います。そういった部分についても皆さんと力を合わせながら、改善に向けていければと思います。

この後は脱炭素の関係とAIオンデマンド交通の取り組みについてご報告に加え、地域の課題等の意見交換をさせていただきたいと思っています。この地域は学校、養護施設、公園などの観光を担う部分、さらに農業が中心ということで課題も多岐にわたると思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。限られた時間ですが、意義ある時間にしたいと思いますので、ご協力をお願いして開会のご挨拶に代えさせていただきます。

出席者紹介

- ・ 近内教育長
- ・ 関澤総務部長
- ・ 西野 SC 戦略室長
- ・ 山下市民生活部長
- ・ 柿本保健福祉部長
- ・ 川上経済部長
- ・ 中島都市施設課長
- ・ 佐藤教育部長
- ・ 小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行～近内教育長～

ゼロカーボンの取り組み

～石出環境課主幹 資料について説明～

市民

農業について、圃場が大区画になってきて作業効率が少し上がっている状況にあります。新しい機械だとロータリーの速度が速くできるようなものもあり、私の面積だと1行程で400Lぐらい軽油が減らせられ、年間だとかなりの量が減らすことができ、ゼロカーボンに繋がると思います。そういった部分で効率の良い機械の導入や作業効率などに対する補助が農業に必要かなと思っています。

市民

7～8年前に市の補助をもらってペレットストーブを導入しました。その頃は灯油が100円ぐらいになれば、ペレットの方が安くなると言われました。今は灯油の値段が上がってきてペレットの方が安くなるかなと思ったのですが、ペレットも値上がりしています。また、ペレットの確保も大変で市内には1カ所しかないの、いざという時に困るので、他に頼るところがあれば教えていただきたい。

石出環境課主幹

現在は1カ所しかない状況です。薪、ペレット

ストーブを増やしていくためには、使うところと合わせて、作るところも考えていく必要があると考えており、課題の一つだと思っています。ゼロカーボンを進めていくためには、エネルギーコストが市外に流れていますので、この取り組みを通じて、少しでも地域内にコストが止まることを考えることが大事だと思いますし、課題だと思っています。

市民

私も薪ストーブを使っていて、炎の動きがあって暖かいので増えればいいなと思いますが、一番のネックは薪の原料の確保です。よく思うのが、公共工事などで木の伐採や街路樹の剪定を行って、そういうものが薪として出回ればと思いましたが、廃棄までが公共工事ということで無理だと聞きました。もう少し行政と事業所と連携して、薪の配布などを作ってもらえればいいなと思います。あと、山にも伐採してそのままになっていてもったいないと思います。こういうのが有効活用できればと思います。

中島都市施設課長

公共工事からでた木については、ある程度の大きさのものは有価物として取り扱っています。その他の老木や腐食した木については廃棄物として処理していますが、有効活用できる木については今後の利活用について検討していきたいと思っています。

市民

毎年、年末の地域要望で道路補修を要望していますが、農産物を運ぶトラックが多いので、道路がボコボコだと減速と加速を繰り返してしまうので、平らにすることで多少排気量が減るのではないかなと思うので合わせてお願いします。

中島都市施設課長

道路の補修については、地域の方から要望をい

ただいで市内全域を整備しています。全ての要望にお応えできないことについては大変申し訳なく思っていますが、今年度は北3号線の大きな陥没について整備しました。最近、舗装の資材も高騰しており、全てを網羅することはできませんが、順次いただいた箇所について整備をしていきます。どうしても急ぎたいという箇所がありましたら遠慮なく連絡いただければと思います。

4. 意見交換

市民

観光の分野について、富良野市は農業と観光とつながっていますが、外国人に対する公共施設のトイレなどの案内が全く無いように感じます。国外の方に対して適切な表示や観光パンフレットも小さすぎて説明しにくいと思うので、外国人に対する対応を行政としても力を入れる必要があるのではないのでしょうか。

それと、午後2時から午後5時までに食事ができる飲食店が珍しいと聞きます。その時間帯に食事ができる場所を料飲店にも協力してもらって対応してはどうでしょうか。

駅前の観光客が目指す案内が少ないのではないかと思います。また、駅の近くにコンビニもなく、観光客が不便をされていると聞きます。それらについても行政として何かしら対応してはどうでしょうか。

それとごみの関係ですが、外国人観光客にも対応できるごみ箱の設置が必要じゃないかと思えます。そういうものがないために、駅のトイレやいたるところに捨てているように見受けられます。

川上経済部長

案内の関係ですが、一時期は外国人観光客を呼び込もうと国をあげて統一したピクトグラムを取り組んできました。まだ足りないのかもしれませんが、逆に最近は旅慣れてきた方も結構いらっやって、案内が多すぎるという意見もあり、そ

の土地に来た感覚が薄れるという声も中にはあります。どのぐらいが適切かは難しいですが、観光協会とも相談をしながらパンフレットも含めて標記について努めていきたいと考えています。

飲食店については、飲食店も非常に人手不足で減っています。コロナ禍で閉店したお店もあり、現在あるお店に集中している状況です。人手不足でお店も疲れている中、対応していると聞いていますし、お店の方針もあると思いますが、休憩を取っていると思います。観光客に対して飲食店の数が少ないということも課題となっていますので、人材不足解消と合わせて検討したいと思います。

駅の案内についてわかりやすいものがあると思いますが、交通機関との協議もありますので検討したいと思います。駅近くのコンビニについては、誘致などは難しいとは思いますが。

ごみ分別については議会の一般質問でもいただきましたが、外国人が地域のステーションに捨てていくと聞きます。外国には分別文化もないところがあります。議会では、外国の皆さんにも分別体験して富良野の文化に触れてもらうというような質問を受けましたが、その徹底は難しいかなと思います。できれば旅館組合等と相談をするよう調整をすすめています。

北市長

ご意見をいただいたこと、観光で富良野に来られる方にも、富良野の観光施設や食事の場所、その周辺の環境がどうなっているのかという情報をどう伝えていくのかということかなと思います。今は観光地に来てから何かを探すという時代ではなく、スマホをもって支払いから観光案内まで済ましてしまうという状況になってきています。いわゆる旅前、旅中、旅後、それが一つの情報ネットワークの中で完結するというサービスが求められています。観光案内も海外に情報発信していますが、その情報を充実、広げていくことが環境整備に繋がっていくのかと思います。加えて、観光に

関わる財源をどう確保するのも大きな課題になります。富良野は宿泊税の導入を検討していますが、北海道も導入を検討しているということです。導入には国の許可が必要ですし、許可には北海道と自治体が合意した中で制度をつくることが求められています。この北海道との合意に向けて検討、議論している最中です。北海道と自治体の役割が一致できないところがあり、もう少し時間がかかるかなと思っています。財源を確保しながらご指摘いただいた部分の対応も図っていかねばと思います。

市民

鳥獣害の被害について、鹿やアライグマの被害が出ていて、鹿は鹿柵などで防いでいる部分とそうでない部分があります。アライグマについては市から箱罠をかりて捕獲を進めています。被害を少なくするためには絶対数を減らすことが一番だと思いますので、箱罠の数を増やして、地域全体で取り組むことが必要ではないかと思います。それに伴い、市職員の対応も本当に毎日忙しい中対応していただき本当に申し訳ないと思うぐらい感謝しています。10月も熊がでて対応が大変だったと思いますし、これから被害が増えていくことを考えると農林課だけでは対応が難しいのではないかと思います。市の中で対応する部署をつくるか人員を増やすとかをしていただきたいと思います。先日の鳥獣害の公聴会で猟友会と市の方とのやり取りを見ましたが、猟友会は地先の方に寄り添う形で対応したい。市の担当者は地先の方に寄り添いたいけど条例や法律がありできないことがあるような感じを受けました。目的は同じだけど寄り添えない部分というのを見ていて感じました。コーディネーターのような方おいて取り組めればいいのかと思いました。

市道の舗装化について9線8号が砂利道で、2回グレーダーで削っていただいています。通っているうちにガタガタになります。舗装が進んで

いない地域の農家さんはスイカも作っている人もいて、割れてしまったりしますので、舗装をお願いしたいと思います。

富良野高校が統合になった後の富良野高校の校舎はどういう利用になるのか。道立校なので市で決めることにはならないと思いますが、もしわかっていることがあれば教えてください。

川上経済部長

鳥獣被害は非常に増えて拡大していると認識しています。アライグマに関しては箱罠の数を増やして市民の皆さんに協力をお願いしたいと思います。一番効果的な時期や効果的な方法を考えています。ハンターの育成は非常に大事だと思っています。猟友会のハンターも高齢化が進んでいますが、若い方々も興味をもって資格を取ろうという雰囲気になっています。ハンターを育成するために令和4年度から資格取得に対して支援や銃を取得するための支援を行っています。市と猟友会と意見交換を行いながら進めていきたいと思っています。

北市長

鳥獣害対策の専任職員については、それぞれの組織から要望もいただいています。これだけ頭数が多くなってきているので、全体を統制していくことも必要になってくると思っています。これについては圏域も同じ状況ですから、どうした連携した対応ができるのかを協議させていただいていますので、その中でも検討させていただきます。

中島都市施設課長

市道の舗装化についてですが、舗装率もようやく50%を超えたところで順次進めています。現在、来年度に向け各地域から要望を承っているところです。地域において要望の優先順位をつけていただけると整備の参考になりますので、可能でしたらよろしくをお願いします。

佐藤教育部長

統合後の跡地については、まだ決まっていません。ただ北海道から利用について照会が来ています。富良野市としては、教育的なものに利用できないかを模索検討しているところです。

市民

中学校の関係で、市内の中学校は学年に2クラスずつある。部活動をみても合同でやっているのもあり、それはそれで交流もできていいけど、将来にむけて少子化が深刻な状況が進んでいる。小学校は地域性があり、小さくてもいいかと思いますが、中学校はある程度団体の活動など切磋琢磨する取り組みが重要だと思います。中学校で1クラスになってしまうことが目に見えている状況なので、市が中心となってその先を見据えた構想を出してほしいと思います。そこが今の富良野高校だったら場所的にはいいのかと思いました。

地域の小学校についてですが、施設があり、1年間で子どもが増減します。年度当初の児童数で教員を配置しています。例えば、児童は今年でいえば6人増えている状況ですが、先生が増えるわけではなく、先生が苦勞されている。地域性も踏まえて柔軟な配置をすることで地域の学校や子どもたちのためになると思うのでよろしく願います。

近内教育長

中学校の生徒が減っているという中で、色々な教育活動、特に部活動も厳しい状況ですが、できることからということで、現在は拠点校方式ということで、競技によって東が西で受け持って合同で行うようにすすめています。ただ、将来的にそれだけで成り立つのかというとなかなか難しいと思っています。この点に関しては沿線、中富良野町、上富良野町も同じような課題を抱えています。そういった市町村をまたいだ連携も視野にい

れています。そういった、基礎的な学校単位では将来的には厳しい状況も考えられます。今の学校の適正規模適正配置の計画が令和9年までの計画となっています。その期間内では中学校は現状と同様の計画となっていますが、例えばどちらか一方の学校の人数がある程度少なくなってしまうことが見れば、学区の調整も検討するというところは計画に含まれています。令和10年度以降の5年毎に見直す中で、先を見据えてどのような形がいいのかを考えていきたいと思っています。

小学校の教員の配置について、中学校は教科ごとに教員を配置しなければいけないという中で、教科ごとに確保が難しい場合は、免許外の先生に対応していただいている状況もあります。これについては、国に対して道教委を通じて配置の要望は毎年しています。年度途中で先生が必要になる場合は人材の確保は苦勞しながらも、例えば時間講師という形で必要な教科を教えられる方を確保して配置するようなことも、今までは行っています。学校と予測を立てながら対応せざるおえない状況ですし、子どもたちの安定的な教育環境の確保を、引き続き連携を密にしながら情報共有しながらすすめていきたいと思っています。

市民

言われているとおりだと思いますが、中学校の件に関しては、先日の新聞報道でもありましたが、全国学力テストで小学生は北海道や上川管内ではいい成績だけでも、中学校は他の地域がいい状況です。中学校の学力向上はこの地域にとっても大事なことだと思うので、そういった側面もある程度多い人数でいた方が切磋琢磨されると思いますので、そういう点についても考えていただきたい。

小学校については、国の子寮があるという地域特性を適正配置にきちっと盛り込んでいく。5年間というのがいいスパンなのかということもあるので、柔軟にやっていただければと思いますのでよろしく願います。

近内教育長

小学校の関係については、毎年次の年はどうなのか、それから3年後はどうかということで検討することになっていますので、保護者の皆さんと現状、将来予測については情報共有しながら進めたいと思っていますのでよろしくお願いします。

市民

ベベルイ川の改修について、去年あたりが来ていませんが、年々やってくれると思っていたがどうなっているのでしょうか。

それと、3号排水、7号排水について道路の下が高く、一段下がって川に近い下について低くなっている。そこが道路の床が高く、上の方が抜けづらい。それが3号、7号についてもありません。

3号については、下の4線から3線で三面トラフが入っていますが、その上については柵渠板で、柵渠板の方が折れてしまっていますので、できれば、4線から8線まで三面トラフになるよう市と北海道で話し合いをしていただき、改修していただきたいと思います。

中島都市施設課長

ベベルイの改修については、北海道の事業なので、現在の進捗状況を含めて再度確認してお答えしたいと思います。合わせて3号排水、7号排水に関しては、まず現場を確認させていただいて、現状を把握したうえで北海道と情報共有していきたいと思います。

3号排水の関係は東4線から上流域について排水路は改良区と連携をとり、再度どのような改修方法が適切なのかをこれから協議を行います。8線にかけてのトラフについても引き続き改良区と情報共有しながら進めていきたいと考えています。

市民

ベベルイの改修について、地域で毎年草刈りをしています。地域も高齢化しているので、効率が落ち、時間がかかるようになってきています。河川の改修についてこれまでもやっていただいているのですが、土現や市にも要望しているが改めて強くお願いしたい。

中島都市施設課長

ベベルイ川の改修については、毎年、北海道建設管理部富良野出張所に社会資本整備の要望について要望をしています。事業の進捗状況も進んでいないという状況もありますが、いただいた意見を北海道に上げていきたいと思います。改修の進捗状況については、北海道に確認して回答します。それと草刈りの関係ですが、日頃より道路河川愛護にご協力をいただきありがとうございます。市全体でも高齢化が問題になっていて、北海道との意見交換をした際にも話をしているところです。何か効率的ないい手法があれば、道とも話をして考えていきたいと思います。

市民

鳥獣害対策で、猟友会にお願いすることが多々あると思いますが、どこかの市町村では猟友会の方が出動する機会が増えて、既に有給休暇を使い切ってしまうと、疲弊して困っている話を聞いた。富良野市の場合はどうなっているのか。

川上経済部長

猟友会の方々が緊急出動した時は日当を支給しています。猟友会に補助しています。先日、地域4カ所で意見交換をさせていただきました。その時には、物価が高騰しているので補助や支援を厚くしてほしいというご意見もいただきましたので、次年度の予算に向けて検討していく状況です。

市民

労働不足の関係ですが、農業だけではなく、色々な業種で人がいないというのがかなり深刻な状況で、国内だけではなく外国人も雇用していかなければいけない状況かと思っています。特に介護関係、建築関係でも人がいなくて大変な状況となつて、農業についても手のかかる仕事ができなくなっている状況です。将来的に多くの人を呼ぶということになれば、住むところが必要になってくる。市の使われてない施設を使うということや、ある程度の規模で受け入れができるような施設が将来的に必要なようになってくるのかと思います。とてもお金がかかることですが、今取り組んでいかなければ、人を確保していけないと思うので、住める環境づくりは最重要課題として検討していただければと思います。

北市長

雇用確保ということで特に海外から招へいた際の生活環境ということですが、市の施設や民間の空き住宅、道の施設なども議論はしていますが、具体的に進んではいません。空き家の活用もご指摘いただいた手法の一つになるかと思っています。時間を置かずに対応していかなければいけないと考えています。加えて海外の人材を確保するということは言葉の課題、コミュニケーションが取れないのが大きな課題になるかと思っています。それらを可能にできるような日本語学校のような施設のようなものも必要かもしれません。あらゆる環境整備が必要になってくるかと思っています。その対策も、働き手がいなくなることが自治体の経済や振興にも大きく左右すると思いますので、ご指摘いただいた部分も含めて色々と検討させていただきます。

市民

富良野市として二セコのような資本を誘致していくような観光を目指すとか、目指す観光地の方

向性があるのかどうかを聞いてみたい。

北市長

いわゆるスキー場を核とした観光をどのように考えているのかということですが、富良野に来たら富良野らしいスキー場、まちの環境、生活、そういったものを守りながらスキー観光を振興できればと考えています。ただ、ホテルができればいいということだけではなく、観光に来られる方のニーズに応えられるようなホテルが大事だと思います。多様な方を受け入れできるような投資をしていただければありがたいと思っています。富良野市に来て、外国と間違えるような開発の仕方は好まないものですし、都市計画の中でご理解いただけるような開発を進めていければと思っています。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

市民

将来的に農村地区にこの交通体系は考えているのでしょうか。

西野 SC 戦略室長

こちらは実証運行ということで、道路運送法に基づいて運行をしています。そうした中で、どれだけ利用があるのか、有料になった場合どれだけの方が、どの地域からどういう風に移動するのかというようなデータを収集しています。こうした乗り物が新しい公共交通として、市民の足として認知され、定着されていって、利用が増えていくと1台では間に合わないような状況になれば、更なる車両の確保、ドライバーの確保が可能になれば、台数を増やしてエリア拡大も選択肢の一つになるかもしれないと思っています。ただ、路線バスもあり、デマンド交通との兼ね合いも含めて、

住民、バス事業者とも協議をしながら検討したい
と思います。まずはこの実証運行ということで、
どれだけ利用者がいるのかを把握して検討してい
きたいと考えています。

近内教育長

お約束の8時半が近づいてきましたので、最後
に北市長から締めのご挨拶申し上げます。

北市長

それでは長時間にわたって、こちら側のテーマ、
あるいは情報提供をさせていただきました。この
関係について、熱心にお聞き取りをいただき、色々
なご意見をいただきましたことに感謝申し上げた
いと思います。しかし、この場だけで全てを理解
したということにはなっていないと思いますし、
一つ一つの事業が説明した内容で終わるというも
のだけではなく、皆さんの意見を取り入れながら
発展充実していけると捉えています。今日の地域
懇談会でご意見をいただきましたが、お気づきの
点があれば遠慮なく行政に届けていただければと
思います。

加えて、地域における課題、将来に向けての考
え方ということで様々なご意見をいただきました。
課題として捉えた時には難しいものもたくさんあ
ります。全てを行政だけでは進められるほど、行
政は完璧なものではありません。これらを皆さん
と一緒に作り上げていく、皆さんの力を借りなが
ら、完璧なものにしていくというのは、行政と住
民との連携、共創ということになるかと思いま
す。引き続き、行政に対するご理解、ご協力をよろ
しくお願い申し上げ、閉会の挨拶にさせていた
だきます。本日は大変ありがとうございました。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

日時 11月14日(火) 18:30~21:00

場所 東山支所

参加者 25人

1. 開会 司会~小笠原企画振興課長~

2. 市長挨拶

今日は東山地区の地域懇談会ということでこのように大勢の皆さんにお集りいただきましたことを、まずもってお礼申し上げます。

東山地域の皆さんにおかれましては、常日頃から地域の振興発展、教育、農業などご尽力いただいておりますし、行政運営にも特段のご配慮をいただいております。この場をお借りして重ねてお礼申し上げます。

この地域は農業ということで、今年の作柄が気になるところですが、夏の異常な気温ではやはり苦戦を強いられたのではないかと思います。結果として、玉ねぎは収量が減少しているとお話を聞いておりますし、人参、ビートについても高温で傷んだ、あるいは生育が不良だったということで、農業トータルでは、いい結果が残せないで終わったのではないかと思います。また、農業資材も値上りしているということであり、困難が二重三重であったと感じております。行政でもそうした資材の高騰分については、支援させていただいております。

また、担い手育成の関係で、今日嬉しいニュースがありましたのでちょっと紹介させていただきます。次年度にむけて、東山でミニトマトをつくりたいという方がいらっしゃって、東山のミニトマトとしてブランドを確立したいという目標をもっています。高い志をもってこられるというのはありがたいお話ですし、地域おこし協力隊から地域に住まわれて活動をしている方もいますし、フォトコンテストも含めて、地域を振興発展させようと取り組んでいる方が既にいますので、そういう方が1人でも増えるということは大変地域にとっても心強いことでもありますし、その方々の活

躍をより期待したいなと思います。そういった方々に行政として支援させていただきますが、地域の皆さんと一緒に、育てていければと思っています。

今日は、地域懇談会ということで、それぞれテーマの情報提供をさせていただきます。地域の魅力を高めたり、住んでいる方々の満足に繋がったり、富良野市のそういったものを掘り起こし、磨き上げていく活動の一環です。この取り組みは、ゼロカーボンであれば、脱炭素に取り組むということだけではなく、地域の魅力を高めていくためには必要な事業でありますし、情報提供のAI オンデマンド交通やデジタルの関係は、この時代が移り変わる中では避けては通れない部分であります。デジタルの部分で言えば、健幸ポイントについて取り組んでいますが、ポイントを付けて健康に対する意識を高めていくことですが、取り組みを通じて、それぞれの健康の状況、体調などを見える化し、さらに健康づくりに努めていただき、市全体で健康寿命が延びる、医療費が削減されることにも繋がればいいと思っています。加えて、デジタルでポイントを還元しますが、このポイントの活用も広がっていくかと思えます。市民の方々がお互いのコミュニケーションの中でポイントを活用するような利用など、利活用についても育て上げるようになっていけばいいなと思っています。

今日は未来をつくろうということでの地域懇談会です。皆さんが日頃から思っている地域の未来に対する思い、取り組みの考え方などもお聞かせいただければありがたいと思っています。限られた時間ですが、皆さんの忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げます。開会のあいさつに代えさせていただきます。

出席者紹介

- ・ 稲葉副市長
- ・ 関澤総務部長
- ・ 西野 SC 戦略室長
- ・ 山下市民生活部長
- ・ 柿本保健福祉部長
- ・ 川上経済部長
- ・ 北川建設水道部長
- ・ 佐藤教育部長
- ・ 小笠原企画振興課長

3. 懇談会 進行～稲葉副市長～

ゼロカーボンの取り組み

～石出環境課主幹 資料について説明～

市民

資料の中で、産業別の CO2 排出量削減量についてちょっと伺いますが、家庭部門の排出量が多いということで、削減しないと達成できないという話でしたが、その説明内容がミスリードなのではないかと思えます。削減量より、その分野ごとの削減率をしっかりとらえた方がいいのではないかと思えます。家庭部門は 2013 年と 2018 年を比べて大体 1 割削減できているようですが、運輸部門だと実質 7～8% ぐらいの削減率なのかと思えます。家庭部門の排出量をどの程度まで削減すると達成できるのか。運輸部門や産業部門もありますが、家庭部門だけ集中して削減すると達成できるのか説明いただきたいと思えます。

石出環境主幹

家庭部門だけ減らしても達成できません。それぞれの部門で削減しなければいけません。今回は市民の皆さんとの地域懇談会ということなので、家庭部門について説明をさせていただきました。それ以外の部門についても今後考えていく必要があると思えますし、農業などもスマート農業で効率化していくことも必要になると思えますし、事業所にも促していきたいと思えます。全ての部門

で減らさなければいけないと思えます。

市民

この資料が市民向けだということでお話をいただきましたが、このゼロカーボンチャレンジという企画自体がどの世代に対してなのかと思えます。この資料も小さくて見えないとか、そういうところからなのかと思えます。その世代ごとに合わせた説明をしないといけないのではないかと思えます。

石出環境課主幹

伝え方については、これからもっと勉強をしながら伝わるようにしていきたいと思えますし、ゼロカーボンというのが 2050 年までにゼロにするということで、あと 21 年あります。そうなってくると、今の小学生、中学生子どもたちが 30 代になった時に、ゼロにするということ、子どもに知ってもらうことが大事だということで、環境省のキャラクターなども使わせてもらいました。もう少しわかりやすく、人や場所によって伝わるように改善しながら進めていきたいと思えますので、ご協力をよろしく願います。

市民

大切な話だと私も自覚しますが、富良野市として地域におろすことはもちろんだと思えますが、各業界に市として力を入れている部分を、市内の企業に対しても共有できるような体制があるのかをお聞きしたい。

石出環境課主幹

共有しながら進めていきたいと思えますし、そういった場を設けたいと思えます。環境審議会があり、審議委員にはふらの農協、商工会議所、連合町内会のそれぞれから選出いただき、15 人ぐらいが集まった会議で進めていきたいと思っています。それだけでは、浸透しないと思えますので、各

団体にもお伝えしながら、実情や意見交換をしながらより良い道を探している状況です。

市民

当然、共有していただろうと思いつきながらお聞きしました。引き続き頑張ってくださいと思います。

市民

二酸化炭素の削減量で 2.1 t 減らすという数字が出てきましたが、重さではなく体積だったらわかりやすいかと思えます。子どもたちにまで伝えようとしたら、体積でこれぐらいだよ、空気の重さで言えばこれぐらいだよなど、極力わかりやすく伝えなければ、子どもたちが中心となって動くときに理解が進まないのではないかと思います。

石出環境課主幹

伝わるようにということでしたが、私は重さがいいのかと思って重さでお話しましたが、人によっては体積の方がわかりやすいということですので、わかりやすく伝えるようにしていきたいと思えます。そういったことも踏まえながら資料を作成し、説明をしていきたいと思えます。

4. 意見交換

市民

過去、職員と何回か交流をして意見交換をしてきましたが、農業的に東山が不利な部分が環境的にあるかと思いついて、市もそれを自覚している中で、できる支援は何かなど、サポートできることを探りたいということでした。東山の農業を何パターンかにわけ、この地域がどういう課題があって、どういうふうにサポートできるかを考えていると言われた。それが今どう生きているのかを聞きたい。

川上経済部長

その職員は非常に、東山のことを思って動いていました。人口減少、農業者の減少の関係、それに伴ってコミュニティがどうなっていくのか、あるいはその中で団体をどうしていくのか、色々なことを考えていました。また、観光では、地域の方々と一緒になってイベントを起こしたり、地域の方々が رفتったりと連携して盛り上げていこうという動きが数年前までありました。担当者が変わりましたが、引き続き東山地域は農家の戸数も減ってきていますし、それをどう維持していくのかというところを、次の農業計画策定に向け、色々な意見を盛り込んでいくところで、その中で実践していきたいと思えます。

市民

それを聞いてほっとしました。少なくなってきた部分で、山際の部分が途絶える流れがあったり、鹿が多かったり、すごく大変なことになっていますが、やはり担い手がない部分もあり、どうしようもない部分があるかと思えますが、東山の農業を守るために、大変な部分も若い人たちをサポートできるような環境を継続していただければと思います。

北市長

農業の振興というのは、富良野市は農業と観光を基幹産業として経済が成り立っていますから、常にその地域にあった農業をどういうふうに支えていくのが大事になってきます。東山は色々な歴史の中で、作付けが変わってきて、今は玉ねぎが中心となっていますが、その玉ねぎも東山地域に本当にあっているのか、今の環境であってないのであれば、合わせるのにどうしたらいいのかということも出てくると思う。やはり基盤になるものを良くしていこうということが、大事なことになると思えますし、その基盤を整備する中で、東山をこうしたら、こんな農業が展開できるよう

になるということもあると思います。そういうものを探すには、行政だけではなく皆さんと一緒に、皆さんがやる取り組みに行政ができる支援を合わせながら、進めていくことが大事だと思います。開会の時にも話しましたが、東山のトマトのブランドを確立したいと大きな志をもって来ようとしている方もいます。そういう人を育てていく、支援していくというのも東山の地域で必要と思います。色々な要素を含めて、東山地域の農業を振興していければと思いますのでよろしくお願いします。

市民

新規就農の予定者がいると聞いただけで嬉しい。今、東山でミニトマト農家が5人ほど本当に頑張っていますし、新しい風も入れてくれる。地域も土地改良については繋いではいませんが、難しい部分もあるなか頑張っていることを理解してもらいたいと思います。東山は全体から見ても不利な要素が多いということを理解してもらえたらと思います。

市民

今年は久しぶりにふるさと祭りを開催しまして、たくさんの方が集まってくれ、みんなこういうのを待っていたのかなと思います。

地域からの要望をまとめて行いますが、先だっ一つお聞きします。道路について、コンバインなどの機械や、輸送手段のトラックなども大きくなっている。道路が狭くて通れない、脱輪するところも多々見られている。最近では除雪車が行けないところもでてきている。生活でも重要な問題です。市の予算も限られているとおもいますし、用地の買収もあろうかと思っています。市としての考えをお聞かせください。

北川建設水道部長

他の地域も農業機械の大型化、トラック輸送の関係で支線になると市道も狭いと伺っています。

ただ、道路の拡幅となると用地買収等がネックになっています。今すぐにはなかなかできないかもしれませんが、地域でこの道路をメインに拡幅してほしいということがあれば、一緒に協議をしながら、地域の方々にも用地買収等でご理解をいただければと思います。

市民

よろしくお願いします。買収と言わずに土地を提供してもいいと思っている人もいっぱいいます。生活、農業のため広くないとどうにもならないこともありますのでよろしくお願いします。

市民

東山支所の改善のお願いですが、支所の2階を利用して地域の高齢者を招き、サロンなどの交流会を行っていますが、高齢者ばかりなので、階段を利用してあがるのが大変です。

国道に関してなので国に言う案件かもしれませんが、国道が傷んでひどいです。自電車が、道路の穴をよけるのに避けるのが車を運転していて危ない。大型の貨物車両が走ると地震が起きたみたいに響わたる。国道38号は幹線道路としての大事な役割なので、国に強く整備をお願いしてもらいたい。

稲葉副市長

支所の関係ですが、福祉的な設備もありますが、支所の階段に合うかどうかはわからないので、今日お答えはできませんが、今後何ができるのかを含めて要望があったと捉えさせていただきます。

国道の関係については承りまして、色々な機会を通じて申し入れをさせていただきます。

市民

西達布川の部分について川の中の雑木をなんとかしてほしい。熊や鹿の住処にもなっています。

北市長

道河川については、先日上川総合振興局で建設関係部署の方と意見交換をしました。災害が起きた時に対応できるような堤防の管理や浚渫を進めていきたいとのことでした。また、堤防の管理についても同様に維持管理に努めたいとのことでした。

市民

観光客がすごく増えていますが、車がポイ捨てしていきます。富良野市が観光をメインにすることであれば、私はトイレとごみ箱を準備する必要があると思います。ごみは持ち帰ってもらうようお願いはしていますがそうならないのが現実です。また、ナビで抜け道を走る方も増えて道路も傷んできています。

ふるさと納税について、集めたものうち返礼品で農産物が多いと思いますので、農業にもう少し使ってもいいのではないかと。

川上経済部長

ごみの関係については、これまでもインターネット等で観光客に事前に周知や、レンタカー会社にちらしを配布などの注意喚起をしてくれているところですが、もう一度観光協会と協議しながら周知を強化したいと思います。

関澤総務部長

ふるさと納税について、令和4年度寄付額が8億3,000万円の内、農業の割合が7割を超え、金額では、メロンが大部分を占めているところです。ふるさと納税はいただいた寄付に対して、かける費用にはルールがあり、返礼品にかけることができるのが3割以下、輸送費や手数料などを込みで5割となり、いただいた寄付の半分が市の財源として残る仕組みになっています。寄付をしていたときに、どの分野に使ってほしいと希望がありますので、希望に沿った目的で様々な事業に充

てているところです。農作物も含めて、返礼品を増やしていただいている状況がありますので、使い方についても様々な工夫が必要だと思っていますので、こういった使い方が効果的なのかを引き続き検討していきたいと思っています。

市民

返礼品のメロンについて、個人で出しているのが個人はもうかりますが、部会としては市場の収量が減ってしまう。本当はいいことではないです。農協経由や市場からなどのメロンも市場には必要で、地域の産業としてはマイナスになってしまいます。また、出されたメロンの良し悪しは誰が見ていますか。それを勝手に送ってしまっている。その辺りがこれからの課題だと思いますので来年度以降に生かしていただきたいと思っています。

関澤総務部長

ふるさと納税仕組みについて、農産物に限らず市で説明会を開催して、出品いただける方を募集します。その中には農協さんにも出していただいていますし、個人農家さんもお出しいただいています。ふるさと納税のメリットは、送料は市が負担するという点と、売り値を少し高く設定できるという点があります。ご指摘いただいた品質の部分については出荷される事業者を信用するしかないというのが現状ですし、ネットでは口コミがあり評価されます。ご指摘いただいた部分は課題としてわかっている部分ですのでご意見として受け止めたいと思います。

市民

鳥獣害について、今年は町中にも熊がでましたし、この地域も熊、鹿、アライグマが農作物を食べるなどの被害があり、減収しています。畑を守るために農林課では電気柵の助成などもしていますが、やはり個体数を減らさなければいけないと思うので、ハンターの育成などを考えてもらいたい

と思います。

川上経済部長

鳥獣害対策では被害が大きくなっています。担当職員もずっと出ている状況です。これまで行ってきたことでは、9月上旬に沿線5市町村長で北海道知事、北海道議会議長へ十分な支援をしてほしいと要望をしてくれています。また、市議会でも意見書を採択し、関係機関へ送られています。また、9月下旬から市内4カ所で有害鳥獣の意見交換をさせていただきました。そこでは様々な意見をいただきました。その中で個体数を減らすということで、ハンターの育成として資格取得への支援や銃を購入するための支援などを令和4年度に設けてPRしています。罾の設置についても効果的な時期を見極めて行いたいと思います。それと広域で鳥獣対策を検討しています。上富良野自衛隊に協力を、市長を中心に要望しています。

市民

兼業ハンターが多いので、いざというときは自分の仕事が優先になってしまいます。できれば専門職を市に設け、職員を増やしていかなければ守り切れないと思いますので、ぜひ今後の農業のためにもちょっと考えていただければと思います。

市民

鳥獣害について、この頃アライグマはひどいと思っています。罾を増やして対応していただいているのですが、市職員の方に毎日対応していただいているので、専門の下請け業者などにもお願いできないのかなと思います。

川上経済部長

今年の予算で回収するようなものを見ていましたが、人不足でうまくいきませんでした。これからどのような形で行うのがいいのかを検討しますが、職員だけでは限界がきています。また、ハン

ターでは占冠村では専門職を抱えているという話も聞きますので、体制整備を模索したいと思っています。

市民

観光について、観光客がゴミをポイ捨てして散乱しています。また、JRが廃線になったことで、レンタカーが増えると思いますが、高齢者は自信がないので運転できないと思います。交流人口を増やすために、今走っているコミュニティカーをふらのバスが走らない時間帯に延長してはどうかと思います。

農業をもっとやりたい、小規模でやりたいという希望者に対する対応は富良野市で行われているのかどうか。

交流人口を増やすために、廃校になった体育館を利用した屋内遊戯施設として活用できないものか。

人口減少について、行政の取り組みでどのように改善できたのかを5年に一度ぐらい知りたいと思います。

コンパクトシティについて、東山地域はどういうふうな未来を描けばいいのかと知りたい。そこをなくして子どもたちが誇れる東山にならないかなと思います。

川上経済部長

ゴミ関係については、まずは持ち帰りが基本になりますので、周知を強化していきたいと思います。また、市議会の一般質問で、観光客、宿泊客に対してゴミ分別を体験させてはという質問がありました。他の自治体で行ったところ、海外では分別する文化がないので、すごく難しかったということでした。ただ、そういうことを通じてポイ捨てが少しでも減るのではないかという考えもありますので、内部で協議をしているところです。

農業担い手の関係については、農業担い手ハンターの職員がフェアなどのイベントに参加して

PR をしています。

佐藤教育部長

体育館の屋内遊戯施設については、今後の計画を立てる段階でアンケートやご意見を取る予定ですので、その参考にさせていただきます。

関澤総務部長

JR について、富良野新得間については廃線になりますが、旭川から富良野を経由して帯広までいくバスを増便することが決まっていますし、西達布線についても幾寅まで伸ばすことや、金山方面は南富良野町の町営バスを運行するという事も決まっています。

人口については、第6次総合計画を作る際に、人口減少の見込みの中で減るペースをどう抑えていくのか、関係人口として富良野に興味をもってもらう人を増やすことが人口減少のペースを抑えることに繋がるのではないかとということで、事業を行ってきています。定期的に見直しをかけ人口の目標をお伝えしたいと思います。

稲葉副市長

コンパクトシティについては、全てを集めるということではなく、無造作に広げるのではなくインフラ整備をしましょうということです。それぞれの地域の誇りとは別になりますので、コンパクトシティは一致しないということで理解いただきたいと思います。

市民

体育館を運営するためには、水やトイレ、暖房費などの維持費が莫大になることはわかっています。ただ特徴として検討していただければと思います。

農業について、色々取り組んでいることはわかりましたので、それを富良野市全体にもわかりやすく伝えていただきたいと思います。

交通について地図では鉄路はわかりますが、道路でバスが走っているかはわからない。観光列車は人気ですぐに売り切れるようなニーズはたくさんあると思うので再考していただきたい。

北市長

子どもたちに誇れる地域をつくりたいということでお話をいただいたと思います。教育の中でも未来づくりフォーラムで語られたのは、ふるさと祭りやフォトコンテスト、人口減少についても触れられていました。それは、人口減少で困ったということではなく、何とか解決して地域を盛り上げたいという意見発表でした。まさに、子どもたちは東山地域を愛しているし、ここに住んでいる方々の色々な取り組みが、子どもたちにとっても誇りになっているのだと思います。

加えて体育館を利用して、さらに子どもたちに夢を与えることができないのかということですが、小学校も色々なところで閉校になっています。全部使うことはできませんが、東山地域ではこうしたらいいというのがあるかもしれません。色々な企業からも提案をいただいていることがありますので、そういったものを実現していくことが可能になった時には、地域の皆さんにご提案をしたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

JR の関係ですが、利便性について落とさないように対応しています。バスの増便も含めて地域コミュニティカーと連携できるのかを考えていただけると交流人口の解決にもなってくるかと思います。

市民

ふるさと祭りでも、保育園の子どもが可愛らしい姿を見て、住民もほっこりしています。その保育園ですが、以前保育所が耐震性もないし、裏のがけ崩れの問題も抱えているということでした。その後の進展はどうなっているのでしょうか。

この間のツールド北海道の問題です。広報や新

聞でも周知されていましたが、地域住民にはあまり知らされていない。悲しい事故が起きましたが、東山地域でも起きていたかもしれないと思うと心配です。大きな大会なので、地域住民にも市から連絡とかほしいなと思いました。

佐藤教育部長

保育所の老朽化などの問題について、皆様からご意見、ご要望をいただいて様々検討をしています。どういった方法が可能なのか、どういうことが必要なのかを具体化に向けて検討している段階です。

市民

東山保育所について、こども未来課長がきて話があり、建て替えについて時期、規模、年数など具体的な話をされたと聞きました。

北市長

準備をしていかなければいけない部分があるので、今回は担当から説明を行ったということで、予算の関係もありますので、まだ公にはできないということを理解していただきたい。

市民

具体的にそのような話がされたので、保護者が勘違いをしてしまうのではないですか。行政として統制がどうなのかなと思います。その場にいた保護者には不快感を持ったという人もいます。

北市長

動きとして説明をしたことは承知していますけれど、職員の一生懸命さがそのようにでたということで理解いただければと思います。決して、これで決まりという話ではないですので、引き続き説明を続けさせていただきます。

稲葉副市長

今動いているということで、皆さんの意見も伺いながら進むべきだと思っています。

山下市民生活部長

本日は部長職が来ていますが、地域懇談会ででた意見は、必ず持ち帰り職場とも共有していますし、色々なことに生かしていこうと思っていますので承知いただけたらと思います。ツールド北海道の関係について、市に主催者から開催日の案内や、コースの発表があり、警備員についても何日に何人配置してほしいと案内がきています。今回も要請があった人数について、交通指導員等を配置しましたが、周知についてはもっと市民にきちっと周知すべきというご意見として受け止めさせていただき、主催者に対してどのような周知がいいのか、意見交換をさせていただきたいと思います。

市民

意見交換をするのであれば、コースを間違えて選手も困ってしまいました。コースの交通管理、安全管理に気を付けてほしいということを伝えていただきたいと思います。

5. 情報提供

AI オンデマンド交通の運行について

～西野 SC 戦略室長 資料にて説明～

稲葉副市長

こちらについては広報 10 月号でもお知らせしていますし、不明なことがあればお電話でもご連絡いただきたいと思います。

もう時間もだいぶ過ぎていますが、もうそろそろこの地域懇談会を終了させていただいてもよろしいでしょうか。閉会にあたり市長からご挨拶申し上げます。

北市長

長時間にわたり様々なご意見をいただきました。こちら側のテーマ、あるいは情報提供をお伝えすることができたかなと思います。今日の地域懇談会はこれで終わりますが、ゼロカーボン、AI オンデマンド、地域の課題ということでもいただいたものも、今すぐに解決できるということにはなかなかかならないかなと思います。引き続き、皆さんの考えを行政に届けていただきたいと思います。インフラの関係については地域要望でいただきますが、ソフトの部分も色々のご意見をいただきました。引き続き行政の方にお伝えいただければと思います。今日いただいた課題は地域として切実なものだと思いました。鳥獣害の関係、子どもたちをどう育てていくのか、地域の農業を含めてどう発展させていくのかという様々な課題があるかと思います。それらを解決していくのにも共創ということの一つのキーワードにさせていただいています。行政だけが何かをするには限界があります。どうしても地域の皆さんの協力をいただきながら、ご意見をいただきながら進めていくのがこれからのまちづくりになると考えています。ぜひとも引き続き行政にご協力をいただくということと、共創のまちづくりを努めて行きたいと思えます。ぜひ、皆さんと力を合わせて良い東山地域をつくっていきたいと思っていますので、ご協力をお願いします。最後になりますが、11月の最中になりましたし、新しい年を迎える時期にもなってきました。ぜひ1年の締めくくりで、一つでも多く幸せを探しながら、充実した1年として終われますように、また、皆さんのご健康でのご活躍をご祈念させていただき閉会の挨拶にかえさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

6. 閉会 ～小笠原企画振興課長～

■自由記載意見

性別	年齢	その他
女性	70歳以上	ゼロカーボンに心がけての生活です。今までもこれからも。町内も高齢者多数で協力が少ないです。
男性	60～69歳	市役所の職員の方が数名出席していましたが自主的に参加したのかなー？
男性	29歳以下	100+aのチャレンジですが、物価が高騰している現代では、節約できる金額の目安もしめしていただければより取り組みやすいと思いました。
男性	50～59歳	理想論を聞かされても心に響かない。行うことにより利益がなければ人は動かない。未来をつくろうと言いながら未来を感じられない。言葉のつくろいではいつか破綻するのでは？職員の説明がくどい意味もなく時間をかけすぎ。まちづくりとゼロカーボンの関連がまったく理解できなかった
男性	50～59歳	ありません。様々なご意見への誠実な回答お疲れ様でした。
男性	70歳以上	今後とも明るい未来に向けてよろしくお願いします。
男性	60～69歳	富良野市には、独身未婚女性との出会いが全然ないので出会いを企画してほしい。
男性	70歳以上	雇用問題も含め、若者の住みやすい町づくりに努めてほしい。
男性	50～59歳	ふらのりの料金の支払い方を多様化してほしいと思います。例（現金、バーコード決済等
男性	29歳以下	運営等お疲れ様でした
男性	70歳以上	1 原始の泉の周囲の草刈りをしてほしい。富良野観光地でもあり多くの人が来てるから。2 空き巣対策にどう取り組んでるか。近所の者が迷惑している
女性	70歳以上	大変ありがとうございました。
男性	50～59歳	若い方が多く参加されるような工夫が必要だと思いました。とても大切なテーマでしたが、生活により密着されるテーマ設定が必要かと思います。今であれば、物価高騰対策とか、少子高齢化対策とか、意見交換は活発になされ良かったと思います。
男性	50～59歳	再エネに対する補助制度はあるが、ゼロカーボンの取り組みとして家庭から排出量を減らすための、省エネ機器への切り替えに対する補助も検討していただきたい。
男性	40～49歳	山部保育所、山部小学校に冷房を設置してほしい。
男性	40～49歳	環境課だけでなく、それぞれの課の取り組み内容について話を聞きたかったです。市の説明がゼロカーボンのだけだったので、ゼロカーボンの説明会かと思いました。また、スーパーがなくなる件については、山部地域についてとても重要な問題だと思いますが、意見を聞いて話しますという事だけではなく、何か新しい取り組みについて、市として提案をいただきたいです。また、色々協議するとのことですが、具体的に話が進んでいるとは思えないです。
男性	70歳以上	山部診療所、くれぐれもよろしくお願い致します。
男性	70歳以上	樹木園の桜が病気がついているようですが、市の方で一回見てください。
男性	60～69歳	オンデマンド交通の取り組みは理解できるが、地域の実情に見合った課題整理を支給検討する必要があると考える。
無回答	70歳以上	鉄道用地ペレプトカイトセッチする
男性	50～59歳	麓郷に住める住宅がないので、市営住宅等を考えてほしい。
女性	60～69歳	市政としての理想と富良野に住む現実に距離を感じました。理想をかかげ、ひとつひとつ満足のいく市政を実現していくためには、時間もかかるのは十分理解できますが、少しでも富良野は住みやすい街、愛されるまちとなるように希望しますし、ひとりひとりが受け身にならずに、生活していきたいものです。

■自由記載意見

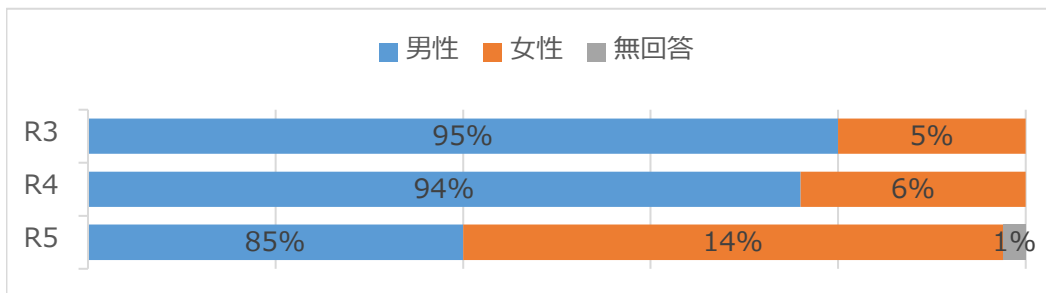
性別	年齢	その他
男性	70歳以上	人口減少は、麓郷のみならず、富良野市を含めて全国的なものです。全体が増えないので片方が増えると一方は減少することになります。とても難しいとは思いますが、子どもに係わる給食費、医療費など無料にするなど、一人ひとりの嗣明に対する支援を多くすることが、人口増につながっていくものと思います。美しい富良野の町が大好きです。
男性	50～59歳	道路の整備。市役所の喫煙所をぜひ作ってほしい。
男性	60～69歳	オンデマンド交通、ぜひとも全市的に
男性	60～69歳	桜並木にお力をお貸しください！
男性	40～49歳	東部地域の人口減少に対して具体的な取り組みについて何かしていますか？ 労働力不足の取り組みについて。布礼別小学校の今後どうなるのか。売却等は考えているのか？ゼロカーボンバイオガス発電等の計画はあるのか？
女性	50～59歳	いつもお世話になっております。児童生徒の健やかな成長のため、学校の環境を改善していただきたいと思います。今年の夏はとても暑く、児童生徒の健康面が心配でした。エアコンの設置をお願いいたします。現在、スポットクーラー等が検討されておりますが、常設のエアコンの学級数分をお願いします。食品ロスについて知ることができ、日常生活で気を付けていきたいと思いました。学校給食費280円で工夫して作っていると思います。富良野の給食センターで改善していると思いますが、食材の安全性についても、更に木を配っていただきたいと思います。水道水の安全性について、洗濯水など、雨の日など茶色になるときがあります。浄水器があるといいのですが。
男性	50～59歳	JR廃線後、布部駅にバス停を置いてほしい、ぜひ
男性	50～59歳	丁寧な説明、ありがとうございました。
男性	70歳以上	今日はご苦勞様でした。
男性	60～69歳	ソフト、ハードの部分、市民と共に取り組みましょう！ごくろうさま
男性	30～39歳	保育所の移設については、早急かつ慎重に取り進めていただきたいと思ます。
男性	60～69歳	老節布地区にある市道線で麓郷へぬける道路、交通量が多いため、大変危険。なんとか考えてほしい。大型車も多い。道路が悪路です。いつか事故がおきる。それでは遅い。
男性	70歳以上	意見、質問等が多く出て良い会でした。担当者の答弁も良かった。
男性	30～39歳	子育て支援で、クーポンのみでなく、家事手伝いなどの妊婦の方の負担軽減になる、家事サービス等の支援をお願いしたい。
男性	60～69歳	今後も東山地域に対して、ご支援よろしく申し上げます。
男性	50～59歳	避難所、指定施設に自家発電の装置設置を望みます。大きな災害では必ずと言っていいほど長時間な停電が起き、気温の低い時期だと文字通り致命的になります。南富の水害の時も第2避難所の南富小に自家発電があったため、避難所が機能できました。災害はいつ起こるかわかりませんので、将来的に完備されるよう検討願います。協会病院線ですが、老節布市発にできないでしょうか。あるいは西達布線、老節布まわり可能でしょうか。学校前から公共交通機関が遠すぎて、転入を検討しづらくなると存じます。（デマンドだけでは）また、老節布の方々は大変に思っていると聞きました。
男性	70歳以上	今日の説明会で使われた用語、アプリ、ダウンロード、Co2/tの体積など説明した人だけが理解して、参加者のどれだけ理解（知って）いるのか不明だ！！人に伝えることの大変さ考えた説明してほしい。

■自由記載意見

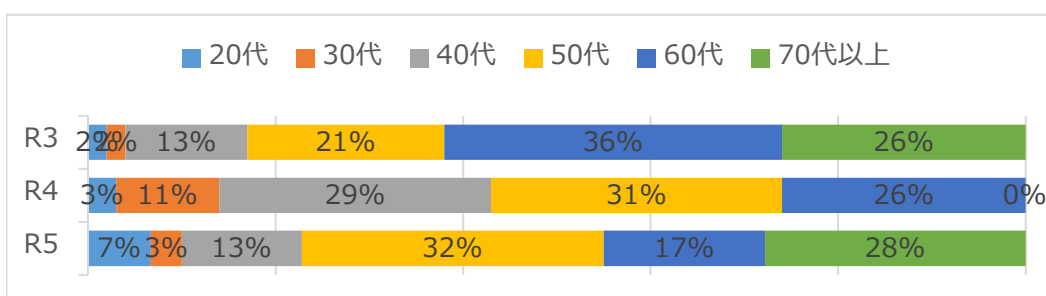
性別	年齢	その他
男性	60～69歳	鳥獣害の実害の正確なおさえ、個体数を減らす工夫、農業の将来展望（不利地、特に山際工作休閑地の散在）不利地の中でもきびしい耕作者に有望な方法、転地する支援は。市の財政への不安。アライグマ、キツネ、シカ集計？

■ アンケート集計結果

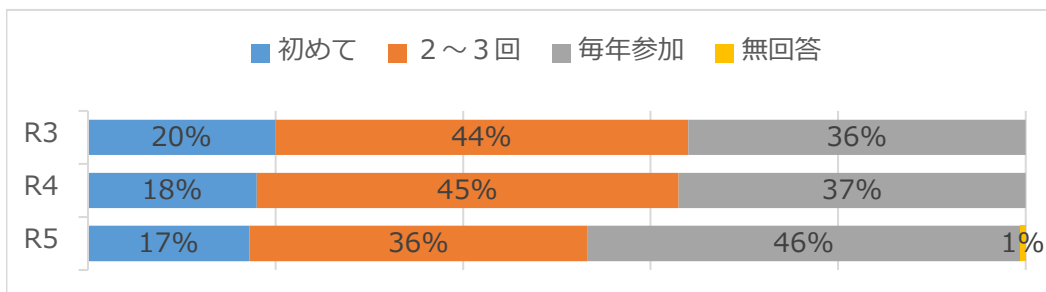
1. 男女別参加者の割合の推移 (R5アンケート回答者数180人)



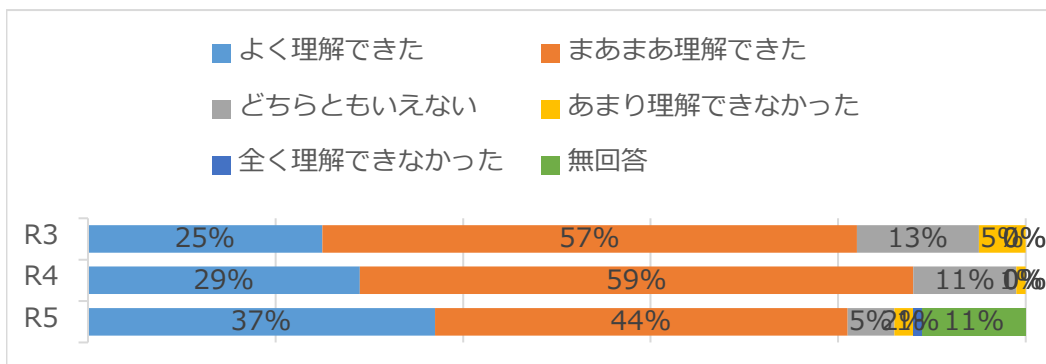
2. 年齢別参加者の割合の推移



3. 参加回数別参加者の割合の推移



4. 市からの提出資料や説明に対して理解できましたか？



5. 今回、地域懇談会に参加されたきっかけは何ですか？

